



第二編

刑法註解



卷 2
C469
13

刑法註解

第貳編

昭和八年五月四日
鶴田乙丑氏
贈

第二編 公益ニ関スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第一百六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第一百七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所為アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス皇陵ニ對シ不敬ノ所為アル者亦同シ

第一百八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一百九條 皇族ニ對シ不敬ノ所為アル者ハ

二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本章ハ皇室ニ對スル罪ヲ處分スル法ニ係ル吾國體ニ於テ皇室ニ對スル罪ヲ犯ス者ハ其罪ノ輕重ノ論セズ最モ其刑ヲ重クシテ處断セサルヲ得サル所ノ者アリ故ニ本章皇室ニ對スル罪ハ爾餘ノ刑ノ權衡ニ因ラス特ニ其刑ヲ重クシタル所以ナリ

第二章 國事ニ關スル罪

第一節 内亂ニ關スル罪

第二百一十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊

シ其他朝憲ヲ紊亂スルヲ目的ト為シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處断ス

一 首魁及シテ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ為シ其他扼要ノ職務ヲ為

シタル者ハ無期流刑ニ處シ其情輕キ者ハ

有期流刑ニ處ス

三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ為

シタル者ハ重禁錮ニ處シ其情輕キ者ハ輕

禁錮ニ處ス

四 教唆ニ乘シテ附加隨行シ又ハ指揮ヲ受

ケテ雜役モ供シタル者ハ二年以上五年以

下ノ輕禁錮ニ處ス

歐洲各國ノ法ニ於テハ國事ニ関スル罪ヲ
犯ス者ハ其心ヲ處スル固ト國事ヲ患ナル
ニ出ルヲ以テ假令其公益ヲ害スル丁大ニ
シテ通常ノ罪ノ比ス可キ者ニ非スト雖モ
其犯人ヲ責罰スルニ共犯中最モ重キ罪犯
ニ係ルモ專ラ無期ノ徒流刑並ニ無期禁獄
ノ刑ヲ以テセリ然ルニ吾國体ニ於テハ前
章ニ解明シタル如ク皇室ニ對スル罪ハ特
別ニ其刑ヲ重クシテ罰セサルヲ得サル所
ノ者アリ本條内亂ノ罪ヲ政府ヲ顛覆シ邦
土ヲ僭竊シ朝憲ヲ紊亂スル丁ヲ目的ト為
シ内亂ヲ起ス者ト記載セリ實ニ此等ノ目
的的ヲ以テ内亂ヲ起シタル片ハ多少皇室ノ

刑罰法草案

威權ヲ減損スルニ至ル丁必然ナリ且ツ歐
洲各國ノ刑法ト雖モ其國事ニ関スル罪ヲ
犯スニ諛リ苟モ其事皇室ニ干連シ危害ヲ
生スルニ至ル片ハ未タ其犯人ヲ死刑ヲ處
セサル者ヲ見ス是レ歐洲各國ニ於テ國事
ニ関スル罪ハ專ラ死刑ニ處セサル法アル
ニ拘ハラズ其事必ス皇室ノ威權ヲ減損ス
可キヲ以テ本條ニ記載シタル目的ヲ以テ
内亂ヲ起シタル者ハ死刑ニ處スル丁ニ定
メタル所以ナリ歐洲各國刑法ニ於テ皇室
ニ干連シ危害ヲ生スルニ至ル者ヲ死刑ニ
處スル例ヲ識ント欲セハ司法省編纂ノ各
國刑法類纂ニ就テ之ヲ看ル可シ

刑罰法草案

本條ノ罪ヲ犯ス者ハ通常ノ罪ト違ヒ首ト
 為リ惡事ヲ畫策スル者ト其餘ノ者ト大ニ
 其威權ノ輕重アル者ナリ復タ此罪ハ僅少
 ノ人數ヲ以テ成ル可キ者ニ非ス每其黨與
 多キ者ナリ故ニ此罪ヲ犯ス者ヲ總則正犯
 ノ例ニ照シ處分セントスレハ其事實ト刑
 ト的當セス且又其黨與數百人ヲ死刑ニ処
 スルニ非サレハ總則ノ例ニ背反スル者ト
 ス故ニ本條ノ罪ヲ犯ス者ヲ罰スルハ總則
 ト其例ヲ異ニシ首魁及ヒ教唆者ヲ以テ死
 刑ト為シ其餘ノ者ハ三類ニ區別シ各其罪
 ノ輕重ニ從ヒ各個ニ刑ヲ加フル丁ニ定メ
 タル所ナリ

本條第二項ニ記載スル所ノ者ハ首謀及ヒ
 教唆者ニ次ク所ノ者ニシテ即チ群眾ヲ指
 揮ヲ為シ及ヒ樞要ノ職務ヲ行フ者ナリ故
 ニ無期流刑ニ處シ其情輕キ者モ有期流刑
 ニ處スル者トス第三項ニ記載シタル者ハ
 兵器金穀ヲ資給スルモ其衆中ニ於テ指揮
 ヲ為サス又諸般ノ職務ヲ為スト雖モ其職
 務タルヤ樞要ノ事ニ非サルヲ以テ重禁獄
 ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處スル者ト
 ス其第四項ニ記載シタル者ハ唯々内亂ヲ
 起ス者ニ左祖シ附和隨行シテ暴動ヲ為シ
 又前數項ニ記載シタル者ノ指揮ヲ受ケ其
 雜役ニ供シタル者ナルヲ以テ二年以上五

年以下ノ輕禁錮ニ處スル者トス
本條ノ罪ヲ犯ス者ハ其公益ヲ害スルノ前
ニ解明シタル如ク通常ノ罪ノ比ス可キニ
非スト雖モ固ト國事ヲ患フルニ出ルヲ以
テ其廉耻ヲ破ルノ事ニ因リ首魁及シ教
唆者ノ外ハ通常ノ刑ニ從ハス流刑禁獄并
ニ輕禁錮ヲ以テ罰スルノ一定ノタル所ヲ以
テナリ

第百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器
彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル
者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ
本條ニ記載シタル者ハ内亂ヲ起スノ目的
ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍事ニ備フ

ル物品ヲ劫掠シタル者トス其未ク戰端ヲ
開クニ至ラサルモ己ニ此等ノ事ヲ為スニ
至ル片ハ其黨與ノ一方ニ在リテ少シク戰
ヲ初ムルヨリ或ハ其巧為ノ更ニ危險ニ涉
ルノアル者ナリ因テ己ニ内亂ヲ起シタル
ト同シク處分スル者トス

第百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ
人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖
モ内亂ト同ク論シ其教唆者及シ下手者ヲ死
刑ニ處ス

本邦從來政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ大
臣ヲ非ス其他威權アリタル所ノ重大臣ヲ限ルニ
テ内ニ謀殺スルノ惡習アリ動モスレハ輒テ

其兵ヲ擧ルト否トニ關セス早ク既ニ謀殺
ヲ行フ者アリ本條ハ此等ノ犯罪ヲ責罰ス
ル為メ設クル所者ニ係ル已ニ政府ヲ變
亂スルノ目的ヲ以テ大臣ニ對シ謀殺ヲ行
フ者ハ通常ノ謀殺ヲ行フ者ノ^比ニ非ス其
公害ヲ為スト甚ク多キ者ナリ故ニ其兵ヲ
擧ルニ至ラサルモ内亂ト同シク論スル者
トス
内亂ニ關スル罪ハ前第百二十一條ニ於テ
通常ノ罪ト其例ヲ異ニシ首魁及シ教唆者
ノ外ハ皆流刑以下ニ問擬スル了ニ定メタ
リ然ルニ本條ノ如キ罪ヲ犯ス者ハ下手者
ト雖モ復々特ニ其刑ヲ重クシテ罰セサル

ヲ得サル所者トス又本條ノ場合ニ於テ
ハ首魁ハ自カラ教唆者トナルヲ以テ内亂
ノ罪ノ内ニ於テ亦其凌例ヲ掲ケ教唆者及
シ下手者ヲ以テ死刑ニ處スト定メタル者
ナリ
然リト雖モ政府ヲ變亂スルノ目的ニ非ス
唯タ自己ノ私怨ヲ披懷シテ謀殺ヲ行フ者
ニ至テハ謀殺本條ニ從ヒ處断ス可キ者ト
ス
第百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ
於テ乃チ本刑ヲ科ス
通常ノ罪ヲ犯サントシテ遂ケサル者ハ其
公益ヲ害スル了寡キヲ以テ已ニ遂ケタル

者ニ一等又ハ二等ヲ減シテ處断スト雖モ
本章ニ記載スル罪ニ至テハ其公益ヲ害ス
ル丁更ニ大ニシテ己ニ其罪ヲ行フニ臨メ
ハ國家ノ危難測ル可カラサルニ至ル者ナ
リ且又此罪ハ決シテ之ヲ遂ク可キ道理ナ
シト雖モ若シ萬一之ヲ遂ルニ至ル片ハ政
体變更シ國家顛覆スルヲ以テ此刑法モ亦
其用ヲ為スヲ得サルニ至ル者ナリ故ニ本
章ニ記載スル犯罪ニ於テハ通常ノ罪ト全
ク其例ヲ異ニシ己ニ其犯罪ヲ行フニ臨メ
ハ直チニ本刑ヲ科スル者トス然リト雖モ
前條大臣ヲ謀殺スル罪ハ其謀殺ハ己ニ之
ヲ遂クルニ至ルモ政府ニ於テ變亂ヲ生セ

ナル丁常ニ然リ故ニ此ノ大臣ヲ謀殺スル
ノ一事ニ於テハ己ニ其事ヲ遂クルニ至ル
モ亦本刑ヲ科スルヲ得ル者トス其未タ遂
ケサル片ニ於テ本刑ヲ科スルヲ本条正面
ノ意トス

第百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ
準備シ其他内亂ノ豫備ヲ為シタル者ハ第百
二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
内亂ノ陰謀ス為シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ
各二等ヲ減ス

本條ニ記載シタル所為アル者ハ曾テ第百
十一條ニ於テ解明シタル如ク國ノ安危ニ
關スル事ニシテ若シ一タニ其事ヲ行フニ

至レハ國家紛亂シ人民塗炭ニ陥リ其禍實ニ測ル可カラサルニ至ルモノナリ故ニ其豫備陰謀ヲ為スヤ通常ノ罪ノ豫備陰謀ト等シク不問ニ置ク可キ者ニ非ス且ツ此犯罪ノ豫備陰謀タルヤ屯集ノ要地道路ノ險夷ヲ探鑿シ運輸ノ便否民情ノ離合ヲ通問視察シ或ハ誓書ヲ作り暗號ヲ製シ撥支ヲ廻スノ類ニシテ人間日常為ス所ノ事ニ非ス何ソ況ンヤ兵隊ヲ招集シ兵器金穀ヲ準備スルニ於テヲヤ是レ實ニ犯罪ノ豫備陰謀タルヲ顯然ニシテ且ツ危險ノ最モ甚シキ者ナリ故ニ本條其豫備ニ止ル者モ僅カニ本刑ニ一等ヲ減シ唯其陰謀ヲ為スノミ

ニ於テモ二等ヲ減スルヲ定メタル所以ナリ

第百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ為スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

本章ニ記載シタル罪ハ前條ニ解明シタル如ク一タニ其事ヲ行フニ至レハ其禍實ニ測ル可カラサルヲ以テ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首スルトキハ國家其危難ヲ免カレ且ツ其黨與ノ未タ自首シタルヲ知ラス頻リニ準備ヲ調ヘ其罪ヲ犯サントスル者アルモ亦此ノ自首ニヨリ其禍ヲ

制止スルヲ得ルヲ以テ本条其自新ノ意ヲ
賞シ本刑ヲ免スルモノトス然リト雖モ固
ト此ノ暴舉ヲ為サントシタル者ナルヲ以
テ其後來ヲ豫防スル為メ三年以下ノ監視
ニ付スル者ナリ

第百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ他人ニ聚會所
ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁
錮ニ處ス

本條内亂ノ情ヲ知テ聚會所ヲ給與シタル
者ト記載スト雖モ固ト内亂ヲ起ス者ニ黨
與シテ此等ノ事ヲ為ス者ニ非ス其情殆シ
ト第百二十一條第四項ニ記載シタル者ニ
同シ但タ内亂ヲ起ス者ニ左袒レテ聚會所

ヲ給與シタルニ過キサレハ二年以上五年
以下ノ輕禁錮ニ處スル者トス故ニ若シ内
亂ヲ起ス者ニ黨與シテ此等ノ事ヲ為スニ
於テハ復タ内亂ヲ起ス者ト等シク處分ス
可キト明カナリ

第百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ
對シ内亂ノ目的ニ関セサル重罪輕罪ヲ犯シ
タル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處断ス
本章ニ記載シタル内亂ノ罪ヲ犯ス者ト雖
モ其内亂ニ乘シ更ニ其内亂ノ目的ニ關係
セサル人ノ身體又ハ財産ニ對スル罪ヲ犯
ス者ハ假令内亂ニ乘シテ此等ノ罪ヲ犯ス
ニ係ルモ復タ通常ノ刑ニ照シ此内亂ノ罪

ト二罪俱発ノ例ニ因リ重キニ從テ處分ス
可キ者トス

第二節 外患ニ關スル罪

第一百二十九條

外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ
背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス
外國ニ與セス本國ニ於テ本國ノ兵ニ抗敵
スル者ハ前節ニ記載シタル内亂ノ罪トス
本節ニ記載スル者ハ前節ト同レク本國ノ
兵ニ抗敵スト雖モ外國ニ與シテ外國ノ兵
ニ加リ本國ニ抗敵スル所為ヲ為ス者ニシ
テ舊法ニ所謂謀叛ノ罪ヲ行フ者ナリ此ノ
罪ヲ行フ者其心或ハ内國ノ政治ヲ改革セ
ントスルニ出ル者間々又之レアル可シト
雖モ内亂ノ罪ノ如ク外國ノ兵ニ加入スル

者其黨與多キニ至ルヲナク且又此罪ハ外
國ノ本國ニ抗敵スルニ左祖シテ共ニ本國
ニ抗敵スル所為ヲ為スニ係ルヲ以テ前節
ノ如ク首魁指揮者并ニ其餘ノ者ヲ分テ各
個ニ刑ヲ定ムルヲ得ス一體ニ總則共犯ノ
例ニ照シテ處断ス可キ者トス然リト雖モ
本節ニ記載シタル罪ハ固ト國事ニ關スル
性質ヲ有スルヲ以テ若シ減輕ス可キ情ア
ル者ハ流刑禁獄ニ減等ス可キ者ナリ
本條同盟國トハ平時和親條約ヲ結ビ交際
ヲ為ス所ノ者ニ非ス戰時ニ於テ特ニ約定
ヲ結ビ本國ノ兵ト合シテ共ニ敵國ヲ撃テ
又ハ共ニ敵兵ノ侵入スルヲ防禦スル所ノ

者等ヲ謂フ又本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬
シタル者トハ未タ自カラ本國ニ抗敵スル
ニ至ラストモ既ニ敵ノ兵隊ニ加リタル者
及ヒ兵士ノ名ヲ以テスルニ非スト雖モ敵
兵ニ附屬シテ諸般ノ事務ヲ為ス者ヲ謂フ
以上記載スル所ノ者ハ皆直接ニ敵對ノ所
為ヲ為スニ係ルヲ以テ至重ノ刑ニ處スル
者トス
第百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内
ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城
塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地
家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處
ス

本條ニ記載シタル者ハ直接ニ本國并ニ同
盟國ニ抗敵スル所為ヲ為ス者ニ非スト雖
モ敵兵ヲ誘導シテ本國ノ管轄内ニ入ラセ
シメ又ハ本國及ニ同盟國ノ都府城塞兵器
彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件
等ヲ敵國ニ交付シ敵兵ノ侵入ヲ助ケタル
者ナルヲ以テ其所為タルマ重天ノ事件ニ
屬シテ反テ直接ニ抗敵スル者ヨリ本國并
ニ同盟國ヲ擾乱スルト更ニ甚シキトアル
可シ且ツ都府城塞兵器彈藥船艦其他軍事
ニ關スル土地家屋等ニ至テハ多クハ高等
ノ威權アル官吏ヲシテ管轄セシムル者ナ
ルヲ以テ若シ其官吏ノ之ヲ交付スルニ至

テハ其害タル實ニ量ル可カラサル者ナリ
故ニ此等ノ所為ヲ為ス者ハ直接ニ抗敵ヲ
為スニ至ラサルモ亦前條ト等シク至重ノ
刑ニ処スル者トス
本條軍事ニ關スル土地家屋物件トハ陣營
港口兵器彈藥製造所及ニ兵糧ノ類ヲ謂フ
此等ノ者ヲ管轄スルハ必ス威權アル所ノ
官吏タル可シ
第百三十一條 本國及ニ同盟國ノ軍情機密ヲ
敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道
路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑
ニ處ス
敵國ノ間諜ヲ内地ニ誘導シ又ハ之ヲ藏匿シ

タル者亦同シ

本條記載スル所ノ者ハ軍情ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シ兵隊屯集ノ要地道路ノ險夷ヲ通知シ又ハ敵國ノ間諜ヲ誘導及ヒ藏匿シタル者ニ係ルヲ以テ本國兵ニ同盟國ノ害ト為ルヲ勘キニ非スト雖モ現ニ本國兵ニ同盟國ニ抗敵シ又ハ本國兵ニ同盟國ノ都府城塞陣營港口兵器彈藥等ヲ敵國ニ交付シタル者ニ比スレハ其害輕シ畢竟前二條ハ外患ニ直接シタル所為ニ係ルト雖モ本條ハ外患ニ直接シタル者ニ非ス唯一步前ノ所為ニ係ルヲ以テ前二條ト等シク處分スル片ハ其權衡ヲ得ス因テ一等ヲ減シ無期

流刑ニ処スル者トス

第三百二十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ為ス者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ処ス本條記載スル所ノ者ハ初ヨリ本國ニ抗敵セシトスル者ニ非ス兩國間戦ヲ起スニ臨ミ本國兵ノ震ハサランテ欲スルカ又ハ自己ノ利欲ヲ貪ホルカ為メ故サラニ命令ニ違背シテ軍備ノ缺乏ヲ致シタル者ナルヲ以テ前數條ニ比スレハ其害輕シ故ニ有期流刑ニ處スル者トス

若シ初ヨリ外國ニ與シ外國ノ兵ヲ利スル

カ為ノ軍備ノ物品ヲ減損シ又ハ工作ヲ廢止シタル者ハ敵兵ニ附屬シタルヲ以テ論シ死刑ニ處ス可キ者トス

第百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

本條記載スル所ノ者ハ本國ヲシテ外國ニ對シ公然戰ヲ起サシムルニ非ス本國ノ國憲ニ背キ唯タ自己ノ名譽ヲ貪ホル心ニ出ルカ又ハ地ヲ外國ニ開クノ心ニ出ルカ若クハ本國ノ武威ヲ外國ニ示サントスルニ出テ私ニ戰ヲ開ク者ナルヲ以テ本國ニ對シテハ毫モ不逞ノ所為ニ非スト雖モ

畢竟兩國ノ和親ヲ妨ケ之ヨリ本國ノ危難ヲ誘起スルニ至ルヲ以テ有期流刑ニ處スル者トス

本條記載スル罪ハ豫備ノ所為ヲ為スルニ於テ發覺スル者多シ若シ此豫備ノ所為ヲ為ス者ヲ通常ノ罪ト等シク不問ニ措テ論セサルハハ實ニ危險ノ甚シキ者ナリ此罪ノ豫備ノ所為又タルマ兵隊ヲ嘯聚シ兵器金穀彈藥船艦等ヲ準備スルノ類ニシテ若シ之ヲ不問ニ措クハ直チニ兵ヲ擧ルニ至ルモ知ル可カラズ又外國ニ於テ本國ニ斯ノ如キ所為ヲ為ス者アルヲ知ルニ於テハ本國ニ對シ疑念ヲ生シ之ヨリ兩國ノ和親

破ルニ至ルアリ故ニ本條ノ豫備ヲ為ス者ハ本刑ニ僅カニ一等又ハ二等ヲ減シテ處断スル者トス

第百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

局外中立ノ布告ハ豫メ其事ヲ定メ置ク者ニ非ス外國ニ於テ戦ヲ起スルニ際シ本國ノ利益又ハ威權ヲ保護スル為メ特ニ布告スル所ノ者ニシテ此布告ハ率テ兵器彈藥船艦等ヲ其戦ヲ為ス兩國若クハ一國ニ賣リ又ハ其兩國中一國ノ兵ニ附属シ其他兩

國ノ間ニ戦争ヲ周旋スルノ類ヲ特ニ禁スル者トス若シ本國人戦ヲ為ス所ノ外國ニ對シ此等ノ所為ヲ為スニ於テハ之ヨリ外國ヲシテ本國ニ對シ抗敵ヲ為ス、媒ヲ為シ又外國ニ對シ實ニ不敬ノ所為ニ係ルヲ以テ此ノ局外中立ノ布告ニ背キ戦ヲ為ス所ノ國ニ對シ關係シタル者ハ本條ノ刑ニ處スル者トス

第百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本章ニ記載シタル罪ヲ犯ス者ハ大ニ其後來ヲ豫防ス可キ者ニ係ル故ニ輕罪ノ刑ニ

處スル者ニ尚ホ二年以下ノ監視ニ付スル者トス

第三章 静謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ暴動ヲ謀リ官吏ノ詭論ヲ受ケルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
兇徒聚衆ノ罪ヲ犯ス者ハ内亂ノ罪ト等シク僅少ノ人數ヲ以テ犯シ得可キ者ニ非ヌ每其黨與多キ者ナリ且ツ此罪ハ其首魁教唆者ト附和隨行スル者ト其犯罪ノ情狀甚

々輕重アル者ナリ故ニ此罪ヲ犯ス者ハ總則共犯ノ例ニ依ラズ首魁教唆者ト附和隨行スル者トヲ別テ犯狀ニ從ヒ其刑ヲ輕重シテ各個ニ處分スルヲ定メタル所以ナリ此罪ハ通常ノ罪ト其例ヲ異ニシ殆ント内亂ノ罪ノ如ク其處分ヲ為スト雖モ内亂ノ罪トハ又其性質ヲ同フセス内亂ノ罪ハ其目的政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其其他朝憲ヲ紊亂スルニ在リト雖モ此罪ハ官吏ニ強逼シ村市ヲ騷擾シ官廳ニ喧鬧スルノ類ニシテ其目的但自己一個ノ私欲ヲ遂ケントスルニ在ルヲ以テ國事ニ關スル罪ノ刑ニ從ハス通常ノ刑ニ依テ處断スル

者トス
又此罪ハ暴動ヲ為サント謀リ官吏ノ説諭
ヲ受ケ仍ホ解散セサル者ト已ニ暴動ヲ初
メ即チ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼シ村市ヲ
騷擾スル等ノ所為ヲ為シタル者ト其暴動
ニ乘シ入ヲ殺死シ家屋船舶等ヲ燒燬シタ
ル者トノ三種ニ別テ各其犯状ニ從ヒ刑ノ
輕重ヲ區別セリ甚タ其權衡ヲ得タル者ト
謂フ可シ
本條ハ即チ兇徒聚衆ノ初歩ニシテ暴動ヲ
為サント謀リ多衆ヲ嘯聚シタル者ト處分
トス若シ官吏ノ説諭ニ服シ解散シタル者
ハ其罪ヲ論セスト雖モ其説諭ヲ受ケ仍ホ

解散セサル者ハ首魁教唆者ト附加隨行ス
ル者トノ二種ニ別テ首魁教唆者ハ固ト暴
動ヲ起サントシ多衆ヲ嘯聚シタルヲ以テ
三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ其附和
隨行者ハ暴動ヲ起スノ謀ニ與カラズ偶然
暴動ノ起ラントスルヲ知り其暴動ヲ起ス
者ニ附和隨行スルモノナルヲ以テ但タニ
圓以上五圓以下ノ罰金ニ處スト定メタル
者ナリ
此ノ附和隨行者トシテ罰ス可キ者ハ實際
ニ臨メハ分別シテ處分スルヲ甚タ困難ナ
ル可シト雖モ其場ニアル者ハ總テ附和隨
行者トシテ罰スルヲ得ス但タ其暴動ニ附

和シテ隨行シタル者ニ限ルトニ注意ス可
シ又其附和隨行者ニシテ其場ヲ逃脫シ或
ハ解散スル者アル可シト雖モ其首魁ヲ捕
縛セントスルヲ見テ解散スル者ノ如キハ
還タ其罪ヲ免カル、トヲ得サル者トス
第三百十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧
鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴
動ヲ為シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ
處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助ケタル者
ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附
和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰
金ニ處ス

前條ハ未タ暴動ヲ初メサル前ニ係ルヲ以

テ首魁及ヒ教唆者ノ外ハ皆同一ノ刑ニ從
フト雖モ本條ハ已ニ暴動ヲ初メ官廳ニ喧
鬧シ官吏ニ強逼シ又ハ村市ヲ騷擾スル等
ノ所為ヲ為スニ係ルヲ以テ首魁及ヒ教唆
者ニ非スト雖モ嘯聚ニ應シ煽動シテ暴動
ノ勢ヲ助ケタル者アル可シ此ノ煽動シテ勢
ヲ助ケタル者ハ已レ自カラ多衆ヲ嘯聚スル
ニ非スト雖已ニ煽動シテ勢ヲ助ケタルヲ
以テ但附和隨行スル者ヨリ其刑ヲ重クシ
テ責罰セサルヲ得ス本條此ノ勢ヲ助ケタ
ル者ニ科スルニ首魁及ヒ教唆者ノ罪ヨリ
一等及ヒ二等輕キ刑ヲ以テセリ甚タ其權
衡ヲ得タル者ト謂フ可シ

本條ニ記載シタル附和隨行者モ亦前條ト
同シク罰金ノミニ處スルト雖モ前條ノ隨
行者ハ未タ暴動ヲ初メサル前ニ係ルヲ以
テ其情輕シ本條ノ隨行者ハ已ニ暴動ヲ初
メタルニ解散セステ隨行シタルヲ以テ
前條ヨリ重クシテ處断スル者トス

第百三十八條

暴動ノ際人ヲ殺死シ若クハ家

屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下

シ及ヒ火ヲ放ツ者ヲ死刑ニ處ス

首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

本條ハ暴動ノ際ニ於テ人ヲ殺死シ家屋船

舶倉庫等ヲ燒燬シタル者ヲ餘ノ暴動ヲ為

ス者ニ分別シテ處分スル所ノ法ニ係ル此

等ノ罪ハ暴動ノ際ニ於テ多クアル可キ者

ナリト雖モ此人ヲ殺死シ家屋船舶倉庫等

ヲ燒燬スル罪ヲ總テ犯人ニ及ホスヲ得

ス此時ニ臨メハ但現ニ手ヲ下シ此等ノ丁

ヲ為ス者ヲ其罪ニ處シ其餘ノ者ハ前條ニ

因リ暴動ノ罪ニ從テ處断スル者トス然リ

ト雖モ此兇徒聚衆ノ首魁教唆者ニシテ其

人ヲ殺死シ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬スル情

ヲ知テ制セサル者ハ已レ自カラ手ヲ下シ

此等ノ罪ヲ犯スニ非スト雖モ固ト此暴動

ヲ起スニ因リ此等ノ罪ヲ犯ス者アルニ至

ルヲ以テ現ニ手ヲ下シタル者ト同シク處

分スル者トス

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル

罪

第一百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ為ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

本條官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シトハ例ヘハ判官民事刑事ノ審判ヲ為シ收稅官吏租稅ヲ徵收シ軍務官吏兵士ヲ招募シ檢事警察官吏罪人ヲ追捕シ及ヒ縣令郡

區長等ノ法律規則ニ定メタル事件ヲ管下ニ施行スルノ類ニシテ即チ官吏其職務ヲ以テ法律規則ニ記載シタル事務ヲ執行スルヲ謂フ又行政司法官署ノ命令ヲ執行ストハ各官署ヨリ命スル所ノ諸般ノ事務ヲ其所屬官吏ニ於テ執行スル事ニシテ例ハハ縣令ノ命ヲ郡區長ニテ執行シ檢事ノ命ヲ警察官吏ニテ執行シ判官ノ判決シタル事件ヲ其所屬官吏ニテ獄司ニテ執行スルノ類ヲ謂フ

本條ハ右ニ掲タル事務ヲ執行スル官吏ニ對シ暴行ヲ加ヘ又ハ脅迫ヲ爲シ其事務ヲ妨害スル者ヲ罰スル法ニ係ル此等ノ罪ハ

刑罰法

其所爲國事ニ關スル罪ニ似タル所アリト雖モ固ト皆自己一個ノ私心ニ出ル者ニシテ國事ヲ患フルニ出ル者ニ非ス因テ輕禁錮ノ刑ニ從ハヌシテ重禁錮ノ刑ニ處セリ且又本條ノ罪ハ專ラ下等官吏ノ人民ニ直接シタル者ニ對シテ行フ者ニ係ルヲ以テ重罪ノ刑ヲ科セスシテ四年以下ノ禁錮ニ處スル者トス

本條第二項ハ官吏タル者ノ身分ニ因リ爲ス可カラサル事ノミナラス普通ノ人民ニ於テモ又爲ス可カラサル事即チ官吏人民ヲ分タス若シ此事ヲ爲スニ於テハ罪ニ處セラル可キ事件ヲ暴行脅迫ヲ以テ強テ爲

刑罰法

サシメタル者ヲ罰スル法ニ係ル例ハ職
權ナキ官吏ヲシテ強テ入ヲ追捕監禁セシ
メ又ハ非法ニ人ノ財産物件ヲ勒取抑留セ
シト其他法律規則ノ施行ヲ妨害セシムル
ノ類皆本項ニ含有スル者トス前條ト同シ
ク處分スル所以ナリ

第四百十條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷

シタル者ハ毆打創傷シ各本條ニ照レ一等ヲ
加ヘ重キニ從テ處断ス

本條ハ更ニ解明ヲ要セス其毆打創傷ノ各
本罪ニ一等ヲ加ヘテ處断スルノ理由ハ官
吏ヲ毆打創傷スルノ故ヲ以テ加等スルニ
非ス官吏ノ職務ヲ妨害スル上ニ何ホ此所

爲ヲ爲スヲ以テ一等ヲ加ヘテ處断スル者

トス

第四百十一條

官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於

テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書圖畫又ハ公
然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

本條ハ官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ侮
辱スルト目前ニ非スト雖モ刊行ノ文書公
然ノ演說等ヲ以テ侮辱シタル者ヲ罰スル
法ニ係ル其職務ニ對スルトニ非スレテ侮
辱シタル片ハ普通ノ人民ヲ侮辱シタルト

均シ、處分スルハ、辨ヲ待タスシテ明カナ
リ
其侮辱ヲ受ケタル官吏ニ於テ若シ惡事ヲ
爲シタル事實アルハ、刊行ノ文書公然ノ
演說等ヲ待タス直ニ紀治處分スルノ道
アルヲ以テ此等ノ侮辱ヲ待ツテ要セス且
又官吏ノ惡事ヲ爲スヲ知ル者モ侮辱スル
ニ非スシテ其惡事ヲ告訴告發スルノ道ア
ル者トス故ニ官吏ノ職務ニ對シ侮辱スル
者モ仍ホ普通ノ人民ニ對シ侮辱ヲ爲シタ
ルト同シク其官吏ニ於テ侮辱ヲ受ケル事
實ノ有無ヲ論セス本條ノ刑ニ處スル者ト
ス

刑罰法
第百四十二條

若シ侮辱ヲ受ケレ官吏ニ其侮辱ヲ受ク可
キ事實アルハ本條ノ刑ヲ免カルハ一ニ
定ムルキハ其侮辱ヲ受ケタル官吏ト侮
辱ヲ爲シタル者ト訟庭ニ於テ對質セサル
ヲ得サル弊ヲ生スルニ因リ本條ハ豫メ其
弊ヲ塞キタル者ナル可シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿
スル罪

第百四十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一
月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ為シ
テ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁
錮ニ處ス但無期徒刑ノ囚徒此條ノ罪ヲ犯シ

刑罰法
第百四十二條

タル時ハ獄則ニ從テ處分ス

本條ハ外ニ解明ス可キナレト雖モ罰金
料ヲ刑ヲ受ケタル者逃走シタル時本條
ニ從テ處断ス可キマ否ノ事ニ因リ左ノ二
議ヲ生セリ即チ第一議ハ拘留ノ刑ハ罰金
ノ刑ヨリ輕シト雖モ逃走シタルハ本條
ノ刑ヲ受ケタルニ因リ罰金ノ刑ニ該ル者モ
若シ逃走シタルハ本條ヲ以テ論セサル
ヲ得ス何トナレハ罰金ノ刑ヲ受ケタル者
其罰金ヲ出サ、ルハ直チニ禁錮ノ刑ニ
換テ處分セサル即チ罰金ノ刑ハ(第百條ニ
因レハ)禁錮ト同等ノ刑ナルヲ以テ其逃走
シタルハ本條ニ從テ處断セサルハ甚々

刑罰法
第百條
ノ二
議

權衡ヲ得サル者ナリ若シ罰金ニ該ル者
逃走シタルハ本條ニ從テ處断スルニ決ス
ルハ拘留ニ換テ處分セラレ、ノ故ヲ以テ
罰金ニ該ル者ト等シク本條ノ刑ニ處ス可
シト論セリ

第二議ハ罰金料ノ刑ヲ受ケ逃走シタル
者ニ本條ノ刑ヲ科スト解明スルハ五錢
ノ料料ヲ受ケタル者モ又本條ノ刑ヲ科セ
サルヲ得ス不權衡、甚シキ者ナリ因テ身
体ヲ束縛スル罪ノ外即チ罰金料ニ該ル
者ハ假令逃走ヲ為スモ本條ノ刑ヲ科セス
若シ其罰金料シ已ニ禁錮拘留ニ換ハタ

刑罰法
第百條
ノ二
議

ル上逃走シタル者ハ業已ニ身体ノ自由ヲ
束縛シタルヲ以テ其時ニ臨メハ本條ノ刑
ニ處レ且ツ未タ入監セサル者モ保釋并ニ
責附中自由ヲ束縛スル刑ノ宣告ヲ受ケタ
ル者ノ逃走シタル者ハ又本條ノ刑ニ處シ
其軍ニ罰金科料ノ刑ノ宣告ノ受ケシ儘ニ
テ逃走シタル者ハ本條ノ刑ヲ科ス可カラ
スト論セリ

右ノ二議各其理由アリ甚ク立論ノ當ヲ得
タル者ノ如シ然リト雖モ若シ右ノ二議ヲ
以テ兩立セシムルハ裁判兩岐ニ涉リ畢
ニ統一スルヲ得サルヲ以テ執法者本條ヲ
實際ニ施行スルニ臨メハ第二議ニ從テ處

分セサルヲ得スト思考セリ
本條第二項ハ旧法ニ所謂反獄ノ罪ヲ定メ
タル者ナリ故ニ其刑前項ヨリ數等重クシ
タル者ナリ

第百四十三條

已決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト
雖モ再犯ヲ以テ論セス其刑期限内再ニ逃走
シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス

本條又外ニ注意ヲ要セスト雖モ其逃走シ
タル罪ヲ再犯ヲ以テ論セサルハ本條ノ罪
ハ在獄ノ囚ニテラサレハ犯スナキ罪ナ
ルヲ以テ普通ノ罪ト其例ヲ異ニシタル者
ナリ且ツ實際ニ徵スルハ本條ノ罪ヲ罰ス
ル刑ハ獄則ニ類似シタル者ニシテ普通ノ

罪ヲ罰スル刑ト其關係ヲ有セス殆ント特
立シタル刑ト謂フヲ得可キヲ以テナリ故
ニ其本刑ノ期限内ニ在テ再ニ逃走シタル
キ曾テ一度逃走シタルノ故ヲ以テ初メテ
再犯ヲ以テ論ス可キ者ト定メタル所以ナ
リ

第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル
者ハ第四百十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ
判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處
断ス

本條ハ未決ノ囚徒入監中逃走シタル片責
罰スル法ニ係ル本條ノ律意ヲ探究スレハ
未決ノ囚ト雖モ已ニ入監シタル上逃走ス

ル片ハ已決囚ト同シク處断スルノミナラ
ズ其未決囚ニシテ審結ノ未畢ニ無罪ニ歸
スル者モ仍ホ逃走ノ刑ヲ免カル、ヲ得サ
ル者トス正理ニ因テ論スル片ハ無罪ニ歸
スル者ハ假令逃走スト雖モ其逃走ノ罪ヲ
科ス可カラサル者ノ如シ然リト雖モ本條
但以下ノ文字アルニ於テハ到底逃走ノ罪
ハ免カル、ヲ得サル者トス故ニ無罪ニ歸
スル者ノ逃走罪ヲ罰セサルトニ為サント
スルハ本條但以下削除セサルヲ得

第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シ
タル時ハ第四百十二條ノ例ニ照シ各一等ヲ
加フ

本條ハ他ノ理由ナシ止タ入數ノ多キヨ
リ其害多キヲ以テ一等ヲ加ヘテ處断スル
者トス

第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲ス兇器
其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示
シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ
囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ
本條ハ普通ノ人民ニシテ囚徒ヲ逃走セシ
ムル爲ノ器械ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ
指示シタル者ヲ罰スル法ニ係ル總則ニ照
セハ本條ノ罪ヲ犯ス者ハ囚徒ノ共犯ト爲
シテ罰ス可キ者ニ似タリト雖モ本條ノ罪

ヲ犯ス者ハ固ト己レ自身囚禁ヲ受クルニ
非スシテ止タ拘禁ヲ受ケシ囚徒ヲシテ逃
走セシムル爲メ右ノ所爲ヲ爲ス者ニ係ル
ヲ以テ共犯トシテ罰スルヲ得ス自カラ別
種ノ罪ト爲ス可キ者ナリ故ニ其囚徒ニ於
テ逃走ヲ爲シ遂ケサル片モ但タ本條ノ所
爲ヲ爲シタル片ハ本條ノ刑ヲ科スル者ト
ス且ツ本條ノ罪ハ其公益ヲ害スルヲ甚ク
大ナルヲ以テ囚徒ニ科スル刑ノ權衡ニ因
ラス特ニ其刑ヲ重クシテ罰スルヲ定メ
タル者ナリ

第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ
以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五

年以下、重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス

前條ハ但器械ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ニレテ已レ自カラ午ヲ下シ

逃走ヲ為サシムルニ非サルヲ以テ其刑輕シト雖モ本條ノ罪ハ親カラ囚徒ヲ劫奪シ

又ハ暴行脅迫ヲ以テ逃走ヲ助ケタルヲ以テ前條ノ刑ヨリ重クレテ罰スル事ニ定メ

タル者トス

第四百十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシメタル時ハ亦前條ノ例ニ同

シ

本條ハ囚徒ヲ看護スル者ニレテ囚徒ニ通

謀シ逃走セシメタル者ノ處分ニ係ル此ノ

監護者ニレテ此ノ罪ヲ犯スルハ其公益ヲ

害スルノ頗ル重ク且ツ其職務ヲ毀廢スル

ノ最モ甚シキニ因リ暴行脅迫ノ所為ナレ

ト雖モ前條ノ刑ヲ科スル者ニ定メタル所

以ナリ

本條ニ就テ立法者ノ意ヲ推察スルハ囚

徒ヲ看護スル者ニ於テハ決シテ暴行脅迫

ヲ為スノナシト判断シタル者ノ如シ故ニ

暴行脅迫ヲ以テ逃走セシメタル者ノ處分

ヲ掲ケス然ルト雖モ若シ囚徒看護者ト通

謀シ逃走ヲ爲サントスルニ臨ミ他人ノ其
逃走ヲ爲スヲ妨障スルニ因リ看護者其妨
障ヲ爲ス者ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘ逃走ヲ
遂ケシメントスルトナシトセス此時ニ該
レハ看護者ノ罪本條ノ刑ヨリ重クシテ罰
セサルヲ得ス如何セン本條ノ外看護者ヲ
罰スルノ刑ナシ因テ看護者ニシテ暴行脅
迫ヲ以テ囚徒ヲ逃走セシメタルハ亦已
ムヲ得ス本條ニ因テ處断セサルヲ得サル
者ナリ

第四百十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯
サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例
ニ照シテ處断ス

前數條ニ記載シタル罪ハ未遂犯罪ノ例ニ
照シテ處分ス可キト更ニ解明ヲ要セスト
雖モ其囚徒ヲ劫奪スル罪ヲ犯ス者ヲ監視
ニ付セサルハ聊カ寬宥ニ過ル者ノ如シ但
シ其之ヲ監視ニ付セサルハ監視ノ刑タル
再犯ヲ豫防スルニ於テハ極テ必要ナル者
ト雖モ總テノ犯者ヲ監視ニ付スルニ於テ
ハ又其弊害ナキニシモ非ス何リヤ監視ノ
刑ハ其身体ヲ拘束スル者ニシテ刑餘ノ人
ノ生業ヲ營ムニ於テハ大ニ妨害ヲ爲ス者
ナレハナリ故ニ監視ノ附加刑ハ務メテ之
ヲ用フ可シト謂フヨリ寧ロ務メテ之ヲ減
少ス可レト謂フヲ以テ甚タ事情ニ適當ス

ル者トス本條示此意ニ因リ監視ニ付セサ
ル者ナラント思惟セリ

第百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚
徒ノ逃走ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時
ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ解明ヲ待タスシテ明カナリト雖モ
其注意ス可キトハ但懈怠ノ二字ニアリ若

シ夫レ看護者ニシテ當然ノ看護ヲ為スニ
於テハ其隙ヲ窺ヒ偶々脱逃スル者アルモ

本條ニ因テ處分ス可キ者ニ非ス本條ニ因
テ處分ス可キ者ハ其懈怠タルト愈々判然

シ即チ當然盡ス可キ看護ヲ盡サシテ逃
走スル者アリタル時初メテ此刑ヲ受ク可
キ者トス(若シ否ラスレテ逃走スル者アル
毎ニ本條ノ刑ヲ受クルニ至ルルハ看護者
ヲシテ殆ント其罰金ヲ出スニ堪ヘサラシ
ム)

第百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監

視ニ付セラレタル者ナルトテ知テ故サラコ
之ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメタル者ハ十一

日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時
ハ一等ヲ加フ

罪ヲ犯シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシム
ルノ罪ハ其性質ヲ論スレハ殆ント從犯ニ
類似シタル者ナリ然リト雖モ從犯トシテ
罰ス可キ者ハ正犯未タ其罪ヲ犯サ、ル前
ニ於テ其犯罪ノ補助スル者ニシテ若シ此
從犯ノ補助ナキ片ハ正犯或ハ其事ヲ止ム
ルモ又知ル可カラス唯タ斯ノ從犯ノ補助
アルヲ以テ終ニ其罪ヲ犯シ遂クルニ至ル
ト謂フノ理由アルニ因リ從犯ニ科ス可キ
刑ハ正犯ノ刑ニ僅カニ一等ヲ減スト雖モ
本條ノ罪ハ否ラス既ニ其罪ヲ犯シタル後
ニ於テ其犯人ヲ藏匿シ又ハ隱避セシムル
者ニシテ其心ヲ處スル甚タ惡ム可キ者ニ

刑法草案卷之四

非ス且ツ各人他人ノ窮テ憐ムハ人情ノ自
カラ然ラシムル者ナルヲ以テ本條ノ罪ヲ
犯ス者ハ從犯ノ刑ノ權衡ニ因ラステ其
刑ヲ輕クシ假令重罪犯ヲ藏匿スルニ係ル
モ一年三月以下ノ輕禁錮ニ處スルトニ定
メタル所以ナリ

第百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメント
圖リ其罪證ト爲ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者
ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處レ二圖以
上二十圖以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罪ハ他人ノ罪ヲ犯シタル證據ト爲
ル可キ物件ヲ隱蔽スル者ニシテ其意殆ン
ト前條ノ罪ト相同レキ者ナリ然ルニ本條

刑法草案卷之四

ノ罪ハ但タ其證據トナル可キ物件ヲ隠蔽
スルニ係ルヲ以テ其刑前條ヨリ輕キ者ナ
リ他復タ解明ヲ要セスレテ明カナリ

第一百五十三條

前二條ノ罪ヲ犯シタル者若シ

犯人ノ親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

親屬互ニ犯罪ヲ容隠スルヲ聽スハ古今ノ

通法ナリ世ノ理論ヲ為ス者ノ説ニ依レハ

凡ソ罪ヲ犯ス者ハ世間ノ公敵ナリ其公敵

ヲ藏匿隱避セシムル者ハ親屬他人ヲ論セ

ス皆之ヲ罰シテ可ナリ若シ親屬ノ故ヲ以

テ之ヲ罰セサルハ頗ル公平ノ道ヲ失フ

者トスト然リト雖モ之ヲ世間ノ情理ニ揆

レハ子トシテ父母ノ過ヲ揚ケ妻トシテ夫

ノ罪ヲ許キ又父母夫ヲシテ子及ヒ妻ノ惡

ヲ鳴ラサシムルハ何ニ因テ其一家ヲ保

ツヲ得シ一家既ニ保ツヲ得スシハ一國又

何ニ因テ維治スルヲ得シヤ是レ親屬互ニ

ニ犯罪ヲ容隠スルヲ聽ス古今ノ通法トス

ル所ナリ本條此通法ニ從ヒ前二條ノ罪ヲ

犯シタル者其犯人ノ親屬ニ係ルハ其罪ヲ

論セスト定メタルハ道理ニ適フ者トス

第四節

附加刑ノ執行ヲ適ル、罪

第一百五十四條

公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ

停止セラレタル者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ

一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上

十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第一百五十五條

監視ニ付セラレタル者其規則

ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重
禁錮ニ處ス

公權ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタル者

私ニ其權ヲ行ヒ及ヒ監視ニ付セラレタル

者其規則ニ違背スルハ囚禁セラレタル囚

徒ノ逃走スルト其刑ノ執行ヲ遵守セサル

トニ於テハ各其歸着スル所ヲ一ニセリ故

ニ囚禁セラレタル囚徒ノ逃走シタル時ト

同シク輕罪ノ刑ヲ加ヘテ責罰スルトニ定

メタル者ナリ然リト雖モ一ハ止夕囚禁シ

タル場所ヨリ逃走シ一ハ規則ニ違背シ又

ハ私ニ公權ヲ行フタル者ニ係ルヲ以テ自

カラ此ハ兩罪ニ於テ其模様ハ異ナル所ア

ル者トス且ツ世ノ公益ヲ害スルトモ多少

ノ輕重アルヲ以テ逃走ノ罪ヲ罰スル刑ト

本二條ノ刑下其權衡ヲ異ニシタル者ナリ

監視ノ規則ニ違背シタル者ヲ罰スル刑ハ

其長期逃走シタル囚徒ヲ罰スル刑ト同シ

ト雖モ其短期十五日ニ下ルヲ以テ其規則

ニ背キタル罪ノ輕キヲ知ル可シ又私ニ公

權ヲ行ヒタル罪ハ此事タル固ト公事ニ屬

スル者ナルヲ以テ世ノ公道ヲ害スルト重

キニヨリ其刑ノ囚徒ノ逃走シタル罪ヲ罰

スル刑ヨリ重クス可キヲ又知ル可シ

監視ノ規則ニ違背シタル者ヲ罰スルニ注

意ヲ要スルハ徒刑ノ囚徒ニシテ假出獄ヲ
許サレ特別ノ監視ニ付セラレタル者其規
則ニ背キタルハ本條ノ刑ヲ科スルハ何レ
ノ裁判所ニ於テスルヤノ一事ニアリトス
此事ニ就テハ裁判所設置ノ備リタル上ニ
非レハ豫メ論定シ難シト雖モ若シ島地ニ
裁判所ヲ設クルニ至ラサルハ其島地最
近ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト定メサルヲ得
サル可シ

第百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再
犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スル
ヲ得ス

本條ノ解ハ第百四十三條ト同シキヲ以テ

再ニ茲ニ之ヲ贅セス

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ
及ヒ所有スル罪

第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得
シテ陸海軍ノ用ニ供スル銃砲彈藥其他破裂
質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月以上二年以
下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ
罰金ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ
前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下
ノ罰金ヲ附加ス

本條ニ掲ケタル軍用ニ供スル銃砲彈藥其
他破裂質ノ物品ハ總テノ人民ヲシテ安リ

ニ之ヲ製造スルヲ聽ス可キ者ニ非ス此等
ノ物品ハ皆ナ争鬭即チ軍用ニ供スル者ニ
シテ内亂外患ノ罪ヲ犯サントスル者ハ常
ニ此等ノ物品ヲ頼ムニ非レハ此罪ヲ犯ス
トヲ得ス其他總テ人ノ身体財産ニ對シ危
害ヲ加ヘントスル罪ヲ犯ス者モ又此等ノ
物品ニ依頼スルト少ナカラス約シテ之ヲ
謂ハハ此等ノ物品ハ專ラ犯罪ヲ助成スル
者ナリ且又此等ノ物品ノ民間ニ散在スル
片ハ罪ヲ犯スノ器械ト爲ラストモ不時破
裂スル等ノ患ヒアリテ甚タ危険ナル者ナ
リ故ニ此等ノ物品ヲ製造セントスル者ハ
政府ノ允許ヲ受ケサルヲ得サル者トス

刑罰法草案

政府ニ於テ此等ノ物品ノ製造ヲ命シ又允
許スルキハ危害ノ生セサルトニ注意スル
ヲ以テ更ニ慮ニ及ハスト雖モ人民妄リニ
之ヲ製造スルニ於テハ右ニ掲ケル如ク甚
シキ危害ヲ生ス可キヲ以テ未タ人ノ身体
財産ニ對シタル罪其他公益ニ關スル罪ヲ
犯サハルモ妄リニ此等ノ物品ヲ製造スル
キハ本條ニ因テ處断スルトニ定メタルハ
甚タ注意ノ至リタル法ト謂フ可シ
又此等ノ物品ハ右ニ掲ケル如ク危害ヲ生
ス可キ者ニ係ルヲ以テ内國ニ於テ之ヲ製
造セスト雖モ若シ外國ヨリ輸入シタル片
ハ亦之ヲ製造シタル者ト同刑ニ處スル者

刑罰法草案 審査局

トス

本條第二項ハ危害ヲ生スル點ヨリ論スル
ルハ前項ト同刑ニ處スルヲ至當ト謂フ可
キカ如シト雖モ其自カラ之ヲ製造スルニ
非ス且ツ又輸入シタル者ニ非サレハ前項
ノ犯人ニ比スレハ其情甚タ輕キ者ナリ且
ツ外國ヨリ一時ニ輸入スル者ニ比スレハ
其販賣スル數モ自カラ寡カル可キヲ以テ
其刑前項ノ半ニ減シタル者トス此レ又其
權衡ヲ得タル者ナリ

第百五十八條

前條ノ罪ニ關スルト雖モ職工
又ハ雇人ニシテ止タ正犯ノ使令ニ供シタル
者ハ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

通常ノ罪ハ二人以上共ニ之ヲ犯シタルルル
ハ皆共犯トナシ處断スト雖モ前條ノ罪ノ
如キハ多クハ豪家巨商又巨高ニ非ストモ
甚タ瞻肯ナル者ノ犯ス所ノ罪ニシテ雇人
職工等ヲ使令シテ製造輸入及ニ販賣ヲ爲
サレムルト多カル可キ者トス然ルヲ止タ
其使令ニ供セラレタル雇人職工等ヲ以テ
其使令ヲ爲シタル正犯ト一律ニ處スルハ
甚タ苛酷ニ涉ル者ナリ因テ其雇人職工ニ
シテ止タ其使令ニ供シタル者ハ前條ノ刑
ニ製造ニ供シタル者及ニ販賣ニ供シタル
者ニ等ヲ減シテ處分スルトニ定メタル所
以ナリ

第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未

タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断
ス

本節ニ記載シタル罪ハ前ニ解明シタル如
ク甚タシキ危害ヲ生スル罪ニ係ル者ナル
ヲ以テ未遂犯罪ノ片ニ於テモ其罪ヲ免カ
ル、ヲ得サル者トス

第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品

ヲ私ニ所有シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ
罰金ニ處ス

本條ハ更ニ解明ヲ要セズシテ明カナリ即
チ危害ヲ生ス可キ物品ヲ私シニ所有スル
ヲ以テ罰金ノ刑ヲ科スル者トス

第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物

品ノ製造ニ供シタル器械ニシテ單ニ其用ニ
供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收
ス

第百五十八條ニ記載シタル物品ヲ製造ス

ル器械ハ固ヨリ危険ナル物品ヲ製造スル
器械ナルヲ以テ沒收ス可キハ論ヲ待タス
ト雖モ既ニ此物品ヲ製造スル用ニ供シタ
ル者ハ盡ク沒收スト謂フニ非ス止タ此等
ノ物品ヲ製造スルノミニ用フル物品ニ係
ル、ニ注意ス可シ即チ總則第四十四條ノ
犯罪ノ用ニ供シタル物品ハ所有主ナキ片
ノ外之ヲ沒收スル、ヲ得スト謂ノ變例ナ

リトス。

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第一百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ

往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

自己ノ利欲ヲ縱ニセントスル目的ヲ以テ

本節ニ記載スル罪ヲ犯ス者ナキニシモ非

ラスト雖モ本節ニ記載シタル罪ハ多クハ

餘ノ罪ニ牽連シ又ハ餘ノ罪ヲ犯サントス

ル目的ニ出テ或ハ他人ヲ困苦セシメント

スル爲メ犯ス所ノ者トス然リト雖モ其目

的トスル所ノ罪ノ何事タルヲ論セス本節

ニ記載シタル所爲ヲ爲スルハ人民一般

ノ公益ヲ損スルト少々ナラス且ツ直接ニ人

ノ身体生命ニ對シ危害ヲ及ホスニ至ルヲ

以テ其目的トシタル罪本節ニ記載シタル

罪ヨリ輕キ片ハ國事ニ關スル罪ヲ犯ス目

的ニ出タル片ヲ除クノ外其目的ノ何事ニ

在ルヲ論セス總テ本節ノ刑ヲ科ス可キ者

トス又或ハ本節ニ記載シタル罪就中第百

六十五條第百六十六條ノ罪ハ國事ニ關ス

ル罪ヲ犯ス目的ニ出テタル片ニ非レハ決

シテ犯ス者ナキニヨリ假令國事ニ關スル

罪ヲ犯ス目的ニ出タル片ニ係ルモ亦本節

ノ刑重キ片ハ本節ニ從テ處分ス可キト

疑ヲ容ル、者ナキニ非ラスト雖モ原来國
事ニ關スル罪ハ其所爲ニ付テ之ヲ論スル
ハ其公益ヲ害スルト此罪ノ上ニ出ル者ナ
シ然ルニ本刑法ニ於テハ特ニ其刑ヲ輕ク
シタリ且又通常ノ罪ハ豫備ノ所爲ヲ爲ス
モ其罪ヲ論セスト雖モ國事ニ關スル罪ハ
此點ニ於テハ大ニ嚴戒ヲ加ヘタル等ニテ
其國事ニ關スル罪ハ全ク一種特別ノ罪ト
定メタル者ナリ故ニ本節ニ記載シタル罪
ヲ犯スモ其目的國事ニ關スル罪ヲ犯スニ
出タル片ハ又其目的トスル所ノ罪ニ從テ
處断セサルヲ得ス若シ國事ニ關スル目的
ニ出テ犯シタル者ヲ本節ニ記載シタル刑

ト國事ニ關スル罪ヲ罰スル刑トニ比照シ
重キニ從テ處断セントスル片ハ其人ヲ殺
シ火ヲ放ツ等ノ事ヲ爲ス片ハ皆此ノ人命
放火ノ刑ニ處セサルヲ得ス然ル片ハ國事
ニ關スル罪ヲ特別ニ掲ケタル效ヲ減却ス
ル者トス且又第六十五條第六十六條
ノ罪ハ國事ニ關スル罪ヲ犯ス目的ニ出ル
ニ非レハ決シテ犯ストナシト断言ス可カ
ラサル者アリ即チ他人ノ強盛ナル勢ヲ妬
ムニ出テ或ハ又自己一個ニテ賣買全利ヲ
獨占セントスル等ノ意ニ出テ、汽車船舶
ノ往來ヲ妨害スル者ナシトセス故ニ本節
ニ記載シタル罪ハ國事ニ關スル罪ヲ犯ス

刑罰法草案審查局

目的ニ出タル者ヲ除クノ外其何ノ目的ニ
出ルヲ問ハス本節ニ記載シタル刑重キキ
ハ本節ニ從ヒ處断ス可キ者トス

本條ハ即チ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ
往来ヲ妨害スルニ係ルヲ以テ鐵道燈臺浮
標等ヲ損壞シテ汽車船舶ノ往来ヲ妨害ス
ル者ニ比スレハ其害輕シ故ニ二年以下ノ
重禁錮二十圓以下ノ罰金ニ處スル者トス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨
害シ若クハ之ヲ阻止シタル者ハ亦前條ニ同
シ
本條ノ罪ハ其所爲全ク前條ニ異ナリト雖
モ其人民ノ便益ヲ損スルト前條ニ比スレ

ハ肯テ其輕重ナシ因テ前條同刑ニ處スル
者トス

第百六十四條 電信ノ器械柱本ヲ損壞シ又ハ
條線ヲ切断シテ電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ
三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ器械柱水條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ
爲スト雖モ不通ニ至ラサル時ハ一等ヲ減ス
本條ニ記載シタル罪モ人民ノ便益ヲ損ス
ル點ニ就テ論スル片ハ前二條ト肯テ異ナ
ルトナシト雖モ前二條ノ罪ハ本條ニ比ス
レハ其害輕シト謂ハサルヲ得ス何トナレ
ハ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シ又ハ郵便ヲ

妨害阻止スルモ直キニ數十百人ノ損害ヲ
為ス一少シ若シ電信ノ一線ヲ断チ一柱ヲ
損壞セシカ其電氣不通ニ至リタルキハ直
キニ數十百人ノ損害ヲ來スノミナラス一
般ノ公益ヲ害スル一甚シキ者ナリ故ニ本
條ノ刑ハ前二條ヨリ重キヲ加ヘタル者ト
ス其未タ不通ニ至ラサル者モ既ニ妨害ヲ
加ヘタルキハ前二條ニ比スレハ其害タル
仍ホ重キヲ以テ不通ニ致シタル者ニ止タ
僅カニ一等ヲ減スルノミ
第百六十五條 汽車ノ往來ヲ妨害スル為メ鐵
道及其標識ヲ損壞シ其他危險ナル障碍ヲ
為シタル者ハ重懲役ニ處ス

第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル為メ燈
臺浮標其他航海ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損
壞シ又ハ詐偽ノ標識ヲ點示シタル者ハ亦前
條ニ同シ
本二條ノ罪ハ人ノ便益ヲ損スルノミナラ
ズ直接ニ數人ノ身體生命ニ對シ危害ヲ及
ホス者ナルヲ以テ前數條ト其輕重ヲ比較
ス可キ者ニ非ス若シ一タニ此妨害ノ為メ
汽車船舶ノ顛没シタルキハ實ニ挽回ス可
カラサル危害ヲ生スル者ナルヲ以テ止タ
鐵道ノ標識ヲ損害シ海面ノ浮標ヲ除棄ス
ルノミニ於テ重懲役ニ處スル者トス
第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務

川去草案審查局

ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時
ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ
本條ニ記載スル事務ニ關スル官吏及ヒ雇
人職工ニシテ前數條ノ罪ヲ犯スモ其惡意
ヲ挾ム點ニ於テハ肯テ通常人ト異ナルナ
シト雖モ其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職
工ニシテ前數條ノ罪ヲ犯スハ甚タ易キ者
ナリ且ツ此等ノ者ハ前數條ニ記載シタル
罪ヲ犯ス者アルハ妨止セサルヲ得サル
身分スルヲ以テ此等ノ者ノ犯シタルハ
一等ヲ加ヘテ處分スル者トス
第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ
人ヲ殺傷シタル者ハ毆打創傷各本條ニ照

刑罰法
第百六十八條
第百六十二條

シ重キニ從テ處断ス
第百六十二條ノ罪モ其罪ヲ犯ス時ニ臨ミ
テ人ヲ殺傷スルヲナシトセス此時ニ方レ
ハ總則數罪俱發ノ例ニ照シ第百六十二條
ノ刑ト其人ヲ殺傷シタル刑トヲ比照シ重
キニ從テ處断ス可キハ固ヨリ當然ノ事ナ
ルヲ以テ此場合ニ於テハ其疑ヲ容ル者
ナカル可シト雖モ第百六十二條ノ罪ハ其
罪ヲ犯スハ臨ミテ人ヲ殺傷スルニ非ス
シテ多クハ其道路橋梁等ヲ損壞シタルニ
因リ其損壞ノ爲メ間接ニ人ヲ殺傷スル者
トス此時ニ方リ直接ニ人ヲ殺傷シタルニ
非サレハ或ハ其人ヲ殺傷シタルハ過失殺

刑罰法
第百六十二條

川去草案審查局

傷ノ刑ニ擬セントスルノ疑ヲ生スルトナ
キ能ハス固ヨリ第百六十二條ノ罪ハ疎虞
懈怠ト謂フ可キ者ニ非ス且ツ其公益ヲ害
スルト少々ナラサル者トス故ニ假令間接
ニ人ヲ殺傷スルモ毆打創傷ノ各本條ニ照
シ重キニ從テ處分セシメン爲メ特ニ本條
ヲ設ケテ人ノ注意ヲ喚起シタル者ナリ
第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ
罪ヲ犯シ因テ氣車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没
シタル時ハ無期徒刑ニ處シ人ヲ死ニ致シタ
ル時ハ死刑ニ處ス
第百六十五條第百六十六條ノ罪ハ前ニ解
シタル如ク人ノ便益ヲ損スルノミナラス

刑法典 卷之四

直接ニ數人ノ身体生命ニ對シ大ナル危害
ヲ及ホス者ナリ故ニ其未タ危害ヲ生セサ
レキニ於テモ已ニ重懲役ニ處ス可キ者ナ
リ況ンヤ本條ニ記載シタル如ク氣車ノ顛
覆シ船舶ノ覆没スルニ至リタル時ハ其危
害タル實ニ謂フ可カラサル者ナリ故ニ未
ク一人ノ死ヲ致ス者ナキニ於テモ無期徒
刑ノ刑ヲ科セリ甚タ權衡ヲ得タル者トス
已ニ人ヲ死ニ致スニ至テハ其害タル他ニ
比ス可キ者ナシ謀殺ニ非サルモ死刑ニ處
スル所以ナリ

第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サン
トシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照

刑去草案審查局

シテ處断ス

本條更ニ解明ヲ要セスシテ明カナリ他又
何ヲカ謂ハシ

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

第百七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸

宅又ハ人ノ看守シタル建築物ニ入りタル者

ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加

フ

一 門戸牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キ

テ入りタル時

二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携

帶シテ入りタル時

三 暴行ヲ爲シテ入りタル時

四 二人以上ニテ入りタル時

故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守

スル所ノ建築物ニ入ル者ハ刺客姦人ニ非

サレハ必ス強竊盜ヲ爲サントスル者ナリ

本條其刺客姦人タル目的ヲ以テ入りシヤ

或ハ強竊盜ヲ爲サントスル目的ヲ以テ入

リシヤ其目的ノ何事ヲ爲サントセシヤ

問ハスト雖モ必ス悪事ヲ爲スノ目的ヲ以

テ入りタル者ト認定ヤサルヲ得ス故ニ其

邸宅建築物ニ入ル者ノ正シキ事故ニ非ス

ト蚤モ入ルヲ得可キ事故アリテ入りタル

者ハ本條ヲ以テ論スル限りニ非サル

注意セサルヲ得ス

本條ハ又人ノ住居シタルト謂フト人ノ看守シタルト謂フニ注意スルヲ要ス若シ人ノ住居セサル廢屋荒舎人ノ看守スルナキ佛寺神殿等ニ入ルモ本條ヲ以テ論スル限リニ在ラサル者トス

本條ニ於テ最モ注意ヲ要スルハ本刑法ニ於テハ國事ニ關スル罪ヲ除クノ外爾餘ノ罪ハ其豫備ヲ爲スモ罰スルヲ得ス已ニ其罪ニ着手シタル時初メテ罰ヲ受クル者トス(其詳カナルヲハ總則第一百十一條第一百十二條ニ就テ看ル可シ)故ニ強竊盜謀殺ノ罪ノ如キモ其盜ヲ爲サントシ又謀殺ヲ爲サ

ントセシ者人ノ邸宅ニ入りタル儘ニテ未タ其盜及ヒ謀殺ニ着手セサル片ニ盜及ヒ謀殺ノ未遂犯罪トシテ罰スルトヲ得ヌ如キ者ハ皆本條ニ依テ處分セサルヲ得サル者トス本條ヲ設置スル主意ノ骨子ハ畢竟此等ノ場合ニ在ル者ナリトス本條左ニ記載シタル所爲アル片ハ一等ヲ加フトアルヲ以テ看レハ門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル片ハ一等ヲ加ヘ其兇器ヲ攜帶シタル片又一等ヲ加ヘ二人以上ニテ入りタル片又一等ヲ加フルト解スル者アル可シト虫モ如此順次加等スル者ニ非ス第三百七十九條ヲ參見

ス可シ該條ニ於テハ一個毎ニ一等ヲ加フ
トアルニ因リ右ノ如ク順次加等ス可シト
雖モ本條此文字ナシ故ニ四個皆備フルル
モ又止タ一個即チ鎖鑰ヲ開クノミニ於テ
モ同シク一等ヲ加フルニ止ムル者トス又
或ハ本條ハ其權衡ヲ得スト難スル者アル
可シト雖モ抑モ第三百七十九條ニ於テハ
已ニ強盜ノ所爲備リタルヲ以テ其二人以
上ニテ犯ス乎又兇器ヲ携帶シテ犯スルハ
其兇害タル益々甚シキヲ以テ一個毎ニ加
等ヲ爲スモ本條ニ於テハ其犯人未タ他事
ニ着手セズ唯々入りタルノミノ事ナルヲ
以テ二人以上ニテ入ルモ兇器ヲ携帶シテ

刑罰法
第百七十九條

第百七十二條 夜間故ナク人ノ住居レタル邸
宅又ハ人ノ看守シタル建造物ニ入りタル者
ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル
時ハ一等ヲ加フ
夜間ハ侵入スル者ニ於テハ晝間ヨリ易シ
而シテ其之ヲ防止セントスル者ハ晝間ヨ
リ難シ且ツ夜間ニ於テハ人ヲ驚愕センム
ルヲ晝間ヨリ多キヲ以テ前條ヨリ重キヲ

刑罰法
第百七十二條

加へテ處分スル者トス

第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及
ヒ皇陵内ニ入りタル者ハ前二條ノ例ニ照シ
各一等ヲ加フ

皇居禁苑離宮行在所等ニ入ル者ハ普通ノ
人家ニ入ル者ト同視ス可キ者ニ非ス第一
其不敬ノ所爲タル一點ニ於テモ恕ス可カ
ラサル者ナリ且又兇害ノ所爲タル點ニ於
テモ重キヲ加へテ處分セサルヲ得サル者
トス故ニ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ
ト定メタル者トス

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪
第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋

倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印ヲ破棄シタ
ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ看守者自カラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ
司法及ヒ行政ノ事務ヲ分タス一般ノ靜謐
ヲ盧ル爲メ人ノ家屋倉庫其他ノ物件ニ封
印ニ爲レ人ヲシテ觸手セレメサルヲ多シ
例ニハ民事刑事ノ審判ヲ爲スニ臨ミ其證
據ト爲ル可キ物件ニ封印ヲ爲シ家資分散
ノ際ニ臨ミ家屋倉庫ニ封印ヲ爲シ又危害
ヲ生ス可キ物件並ニ違禁ノ製造所ヲ封ス
ル等ノ如シ此等ノ事タル其人民ノ利害ニ
關スルヲ頗ル重キ者ナリ故ニ此ノ封印ヲ
爲シタル物件ハ人民輒ク觸手スルヲ得サ

ル者トス若シ一タヒ此ノ封印ヲ破棄スル者アル時ハ此等ノ事ニ關係アル者ヲシテ大ニ其害ヲ被ラシムル者ナリ故ニ此封印ヲ破棄シタル時ハ其封印ヲ爲シタル物件ヲ破壊スルニ至ラサルモ但此封印ヲ破棄スルノミニ於テ本條ノ刑ニ處スル者トス看守ナル者ハ此破棄ノ罪ヲ犯ス者アル時ハ防止セサルヲ得サル責任アル者トス其責任アル者ニシテ讎テ已レ自カラ此罪ヲ犯ス時ハ其刑ヲ重クシテ處分セサルヲ得ス本條看守者ニ一等ヲ加ヘタル所以ナリ

第百七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ

刑罰法
第百七十五條
官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ

各本條ニ照シ重キニ從テ處断ス

前條ニ解シタル如ク封印ヲ破棄スル罪ハ其關係アル人民ニ大害ヲ被ラシムル者ナリ然ルニ其封印ヲ破棄シタル上仍ホ其物件ヲ盜奪毀壞スルニ至ル時ハ愈々其害ヲ益ス者トス故ニ封印ヲ破棄シタル上仍ホ其物件ヲ盜奪毀壞スル時ハ前條ヨリ重キヲ加ヘテ處分セサルヲ得サル者ナリ幸ニシテ盜奪毀壞ノ各本罪ハ前條ノ刑ヨリ信以上重キヲ加ヘタルヲ以テ封印ヲ破棄シタル上盜奪毀壞ノ所爲ヲ爲ス者ハ其盜奪毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從ヒ處断スル者トス

刑罰法
第百七十五條
官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ

盜奪毀壞ノ罪ハ官署ノ處分ヲ以テ施シタ
ル封印ヲ破棄スルニ非スレテ但尋常一般
ノ物件ニ係ル時モ其盜奪毀壞ノ罪ヲ免カ
ル、一テ得ス本條ノ如ク官封ヲ破棄シタ
ル上仍ホ其物件ヲ盜奪毀壞スル時ハ普通
ノ盜奪毀壞ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ處分スル
ニ非レハ其權衡ヲ得スト論スル者アリ至
當ノ論ト謂ツ可レ然ルニ此封印破棄ノ罪
タルヤ固ト物件ニ對スル罪ニシテ其關係
アル者ニ大害ヲ被ラスト謂フト雖モ身體
ニ對スル罪ヨリ其害重シト謂フヲ得ス其
他本刑法中ニ於テ總テノ罪ト比較スル時
ハ此封印破棄ノ罪ハ先ツ二月以上二年以

下ノ刑ヲ科スルヲ以テ適當ノ權衡トス即
チ本罪二月以上二年以下ノ刑ヲ以テ適當
トスル所ノ者ナルヲ以テ其盜奪毀壞ノ所
爲ヲ加ヘタル時一等ヲ加フル時ハ其刑反
テ苛酷ニ過クルノ故ヲ以テ加等ニ從ハス
ルニシテ盜奪毀壞ノ本刑ニ依テ處断ス可シト
定メタル者ノ如シ
本條ニ於テ最モ注意ヲ要スルハ自己ノ物
件ト雖モ官署ノ處分ヲ以テ封印ヲ爲シタ
ル時其封印ヲ破棄シテ物件ヲ盜奪毀壞シ
タル者ハ仍ホ本條ニ依テ處分セサルヲ得
サルノ一事トス

第百七十六條

首守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破

刑去草案審査局

棄シ又ハ其物件ヲ盜取毀壞スル犯人アルト
ヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處ス

本條ハ解明ヲ待タスシテ明カナリ茲ニ之
ヲ贅セス

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

第一百七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要
求スル權アル官署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナク
シテ之ヲ肯セサル時ハ二月以上二年以下ノ
輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

本條ハ兇徒聚衆其他事變ニ遭遇シ兵威ヲ
以テ鎮撫スルヲ要スル時其出兵ヲ要求ス

ル權アル官署ノ要求ヲ受ケ事故ナクシテ
其要求ニ應セサル將校タル者ヲ罰スル法
ニ係ル其情狀稍々國事ニ關スル罪ノ部分
ニ近キラ以テ重禁錮ニ從ハスシテ輕禁錮
ニ處スル者トス

本條將校ト稱スルハ士官以上ノ者ニシテ
現ニ其職務ヲ行フ所ノ者ヲ謂フ何トナレ
ハ非職ノ將校ハ兵ヲ指揮スル能ハス又下
士ハ自ラ要求ニ應シ兵ヲ動カスコトヲ得サ
ル者ナレハナリ

本條出兵ヲ要求スル權アル官署云々ト掲
ゲタリト雖モ若シ其官署陸海軍衙ニ在ル
時ハ本條ニ因ラス陸海軍律ニ從テ處断ヲ

受ク可キヲ疑ラ容レサル者トス

第七十八條 陸海軍ノ徴兵ニ編入セラル可
キ者身體ヲ毀傷シテ疾病ヲ作為シ其他詐偽
ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時ハ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ニ囑託シ其姓名ヲ詐稱シ代テ徴募
ニ應セシメタル者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徴
募ニ應シタル者ハ第二百三十一條ノ例ニ照
シテ處断ス

本條ハ軍律ニ讓ルヲ以テ的當ノ如ク看ル
者アル可シト雖モ原來軍律ナル者ハ此刑
法ノ特別法トシテ設クル所ノ者ニシテ其

未タ陸海軍衙ノ管轄ニ屬セサル者ノ罪ハ
本刑法ヲ以テ處分スルヲ至當ノ事トス故
ニ徴兵ニ編入セラル可キ者既ニ徴兵士ノ
檢閲ヲ經軍營ニ入り讀法ノ式ヲ終リタル
時ハ軍律ノ處分ヲ受ク可キモ未タ其讀法
ヲ終ラサル者ハ軍衙ノ管轄ニ屬セサルヲ
以テ本刑法ニ依テ處分スル者トス
本條ニ記載シタル如ク身體ヲ毀傷シテ疾
病ヲ作為シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ
規圖スル者ハ國民タルノ義務ニ背クヲ少
クナラサルヲ以テ本條ニ因リ處断スル者
トス其身體ヲ毀傷シ詐偽ノ所爲ヲ爲スニ
非スト雖モ他スニ囑託シ代テ徴募ニ應セ

シノタル者モ其義務ニ背ク結果ニ至テハ
詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ規圖スル者ハ敢
テ異ナルナキヲ以テ同シク處断ヲ受ク可
キ者トス其囑託ヲ受ケ代テ徵募ニ應シタ
ル者ハ國民ノ義務ニ背キタルニ非スレテ
止メ官署ヲ詐偽スルノミニ係ルヲ以テ第
二百三十一條ニ依テ處断スル者トス
第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官
署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者
故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十
圓以下ノ罰金ニ處ス
本條并ニ次條亦國民タル者ノ義務ニ背ク
ヲ責ムルニ外ナラス 醫師化學家其他専門

事業ニ連スル者ハ解剖分析鑑定ヲ要ス
ルハ多クハ刑事裁判所ニ於テ犯人ノ罪ヲ
審判スル時ニ在リトス右等ノ者ノ解剖分
析鑑定ニ因ラサル時ハ其審判ヲ爲スヲ得
サルヲ以テ此命ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セ
サル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ科
スル者トス
第八十條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳
述スルヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ
肯セサル時ハ亦前条ニ同シ
證人トシテ證據ノ陳述ヲ命セラレタル者モ
此陳述ヲ爲サル時ハ醫師化學家等ノ解
剖分析ヲ爲サルト等シク審判ノ妨害ヲ

司法警察審査局

為スニ至ル者ナリ因テ故ナク此陳述ヲ為
サ、ル者ハ前條同刑ニ處スル者トス

第百八十一條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ
疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ檢
査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルヲ命セラ
レタル者故ナクシテ之ヲ背セサル時ハ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯シタ
ル時ハ一等ヲ減ス

本條ニ記載シタル命ヲ受ケ故ナクシテ之
ヲ背ンセサル者ハ徒ニ官署ノ命ニ背クノ
ミナラス其命ヲ背ンセサルニ因リ若シ病
患ノ檢査消滅ノ方法ヲ誤ルニ至ル時ハ世

ノ公益ヲ害スルヲ實ニ計ル可カラサルニ
至ル者ナリ故ニ其命ヲ受ケ故ナクシテ之
ヲ背ンセサル者ハ前二條ノ刑ヨリ重キヲ
加ヘテ罰スルヲ定メタル所以ナリ

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ
偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
若シ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
本章ハ各種ノ物品ヲ偽造變造スル者ヲ罰
スル法ニ係ル抑モ偽造ノ罪タル一般ノ信
用ヲ害スルヲ甚ク廣キ者ナリ就中貨幣國
壘詔書ノ類ヲ偽造スル時ハ其公益ヲ害ス

ルノ最モ甚シキ者トス故ニ其刑無期徒刑
ヲ以テセリ又偽証ノ罪ハ直チニ世上一般
ノ者ニ對シ妨害ヲ及ホサスト雖モ此偽証
ノ爲メ人ノ罪ヲ免カレシメ又人ヲシテ罪
ニ陷ラシムル時ハ假令一人一個ニ係ルモ
其害輕シトセス本章偽証者ヲ罰スルニ及
坐ノ法ヲ設ケタル所以ナリ其餘各種ノ偽
造變造罪ハ其害輕キニ非スト雖モ以上掲
ケタル者ノ如ク甚シキニ至ル者ニ非サレ
ハ詔書ヲ増減變換シタル者及ヒ其事務ニ
管掌スル官吏ノ無記名ノ公債証書ヲ偽造
變造スルヲ除ク外重懲役以下ノ刑ヲ以
テ罰スルコトニ定メタル者ナリ

偽造トハ固トナキ所ノ者ニシテ新タニ真
貨ニ偽セ造ル所ノ者ヲ謂フ偽造ノ罪ヲ犯
ス者ハ先ツ初メニ此偽造ヲ爲ス器械ヲ製
造セサルヲ得ス若シ一旦器械ノ製造成リ
タル時ハ幾許ノ貨幣ヲ偽造スルモ頗ル容
易ナル者トス故ニ此貨幣偽造ノ罪ハ公益
ノ害ト爲ルコト實ニ計ル可カラサルニ至ル
者ナリ本條偽造シテ行使シタル者ニ無期
徒刑ヲ科スル所以ナリ
變造トハ固トアル所ノ真貨ノ價額ヲ増シ
例ハハ二十錢ノ字畫ヲ描改シ五十錢ト爲
スノ類又ハ量目ヲ減シ例ハハ金銀貨ノ邊
縁ヲ剪削シ又ハ孔ヲ穿テ填スルニ他ノ金

屬ヲ以テスルノ類(其他真貨ノ刑ヲ變スル者)例ハ銀貨ニ金ヲ燒附タルノ類ノ謂ニシテ偽造ニ比スレハ其害輕キ者トス何トナレハ偽造ハ一旦其偽造ヲ爲ス器械ヲ製造シタル時ハ一時ニ許多ノ貨幣ヲ偽造スルヲ得ルモ變造ハ否ラス固トアル所ノ真貨ニ就キ一タエラ下スニ非サレハ變造スルヲ得サレハナリ故ニ其刑偽造ノ刑ヨリ頗フル減降シタル者トス

本條紙幣ヲ偽造變造スル者ト金銀貨ヲ偽造變造スル者ト同シク處分スルハ紙幣ハ其實價ニ就テハ金銀貨ニ及ハスト雖モ止メ偽造變造ノ爲ニ易キヲ以テ其公益ヲ害

スルヲ甚シキヲ以テノ故ナリ直ニ内閣本節ノ罪ハ偽造變造已ニ成テ行使シタル時初メ其罪ノ遂ケタル者トシ次節ノ罪ハ止メ其偽造ノ成リタル時其罪ノ遂ケタル者ト定メタルノ理由ハ次節ニ於テ解明ス可シト雖モ本節即チ貨幣偽造ノ罪ハ已ニ一度其偽造變造シタル貨幣ノ他人ノ手ニ渡リタル上ハ轉輾流通スルヲ以テ其出處ヲ確知スルヲ甚タ難キ者ナリ然ル時ハ其偽貨ヲ取受シタル者ト害ノ爲ルヲ實ニ計ル可カラサルニ至ル者ナリ然ルニ其未ダ行使セサル時ニ於テハ其偽造變造ノ所為タル固ヨリ惡ム可キノ甚シキ者ト雖モ

未タ一人ノ害ヲ被ムル者ナキヲ以テ本節ノ罪ニ就テハ其偽貨ヲ行使スルヲ以テ其罪ノ全ク遂ケタル者ト定メタル者トス故ニ其未タ行使セサル者ハ第百八十六條ニ於テ一等ヲ減スルト定メタリ

第百八十三條 内國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使スルモ若シ其金銀貨内國ニ於テ當然通用ヲ爲ス者ニ係ル時ハ内國其害ヲ被ムルト直チニ内國

金銀貨ヲ偽造シテ行使スルニ異ナルナシ然リト雖モ外國金銀貨ノ内國ニ於テ通用スルハ内國金銀貨ノ如ク其數多キニ至ラス且又外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使スルモ内國ノ財政ニ妨碍ヲ及ホスト内國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使スルカ如ク甚シキニ及ハサルヲ以テ内國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ニ一等ヲ降シ有期徒刑ニ處スル者トス

其變造シテ行使スルニ係ルモ右ニ解スル理由ニ同シ一等ヲ減シ二年以上五年以下ノ禁錮ニ處スル所以ナリ

第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙

司法省 案審査局

幣ヲ偽造シ若クハ變造シテ行使シタル者ハ
内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處
斬ス

官許ヲ得テ發行スル所ノ銀行ノ紙幣ハ世
間ニ流通シテ公私ノ便益ヲ成スル真ノ貨
幣ニ異ナルナシ若シ此紙幣ヲ偽造變造シ
テ行使スル者アル時ハ世間ノ害ヲ被ムル
一真貨ヲ偽造變造シテ行使スルニ異ナル
ナシ因テ其偽造變造内國銀行ノ紙幣ニ係
ル時ハ第百八十二條ノ刑ヲ科シ外國銀行
ノ紙幣ニ係ル時ハ前條ノ刑ニ照シテ處斬ス
ル一ニ定メタル所以ナリ

第百八十五條 内國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行

使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年

以下ノ重禁錮ニ處ス

銅貨ヲ偽造變造シテ行使スル者アル時ハ

亦其害ヲ被ムル者多カル可キカ如シト雖

モ銅貨ノ物タル其價額甚タ少ナル者ニシ

テ假令幾許之ヲ偽造變造スル者アルモ人

民各個ニ就テハ其害ヲ被ムル甚タ寡キ

者ナリ即チ金銀貨ノ偽造變造ノ爲メ害ヲ

被ムルモノ、比ス可キ者ニ非ス故ニ其偽

造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處シ變造

シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ

禁錮ニ處スル者トス

第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造已ニ成テ未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサル者ハ二等ヲ減ス
若シ偽造ノ器械ヲ豫備シテ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス

貨幣ヲ偽造變造スル罪ハ前第百八十二條ニ解明シタル如ク偽造變造已ニ成ルモ未タ行使セサル時ハ此罪ノ遂ケタル者ト爲サ、ルヲ以テ其未タ行使セサル者ハ一等ヲ減シ偽造變造ニ着手シテ未タ偽造變造ノ成ラサル者ハ二等ヲ減シ但タ豫備ニ止リテ未タ着手ニ至ラサル者ハ三等ヲ減ス

ト定メタル所以ナリ
故ニ第百八十二條ノ貨幣ヲ偽造シテ未タ行使セサル者ハ有期徒刑ニ處シ偽造ニ着手シテ未タ偽造ノ成ラサル者ハ重懲役ニ處シ但タ豫備ノミニ止リテ未タ着手セサル者ハ輕懲役ニ處シ其變造ニ係ル者モ未タ行使セサル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ變造ニ着手シテ未タ變造ノ成ラサル者ハ一年以上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ但タ豫備ノミニ止リテ未タ着手セサル者ハ一年以上二年半以下ノ重禁錮ニ處スル者トス以下三條皆此例ノ如ク各々其行使シタル刑ヨリ減等スル者トス

第百八十七條

貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知

テ雇ヲ受ケタル職工ハ前數條ニ記載シタル

犯人ノ受ケ可キ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者

ハ職工ノ刑ニ照シ一等又ハ二等ヲ減ス

本條職工ノ罪ハ總則ニ照セハ正犯ト爲シ

偽造變造ノ本犯ト一律ニ處セサルヲ得サ

ル所ノ者トス然リト雖モ本條并ニ軍用ニ

供スル銃礮彈藥等ヲ製造スル罪ヲ犯ス者

ハ其首謀者ト雇ヲ受ケタル職工トニ於テ

ハ其情大ニ輕重アル者ナリ故ニ其雇ヲ受

ケタル職工ハ總則共犯ノ例ニ從ハス二等

ヲ減シテ處断スルヲ定メタル者トス

又其職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル

者ハ職工ニ比スレハ其情大ニ輕キ者ナリ

故ニ此雜役ニ供シタル者ハ職工ノ受ク可

キ刑ニ照シテ復タ一等二等ヲ減スル者ト

ス

故ニ本犯金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル時

ハ職工ハ一等ヲ減シ有期徒刑ニ處シ雜役

ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ減等シテ重懲

役又ハ輕懲役ニ處スル者トス其銅貨偽造

ニ係ル者ハ職工ハ二年以上五年以下ノ重

禁錮ニ處シ雜役ニ供シタル者ハ一年半以

上三年九月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ一年

以上二年半以下ノ重禁錮ニ處スル者トス

餘ハ此例ヲ推及スレハ自カラ判然タルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ其情雇ヲ受ケテ偽造變造シタル職工ヨリ輕クシテ雜役ニ供シタル者ヨリ重シ故ニ偽造變造ノ各本刑ニ二等ヲ減スト定メタル所以ナリ

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造變造ノ刑ニ同シ
偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シテ行使ス

ル時ハ内國其害ヲ被ムル内國ニ於テ直チニ偽造變造シテ行使スルニ異ナルナシ故ニ偽造變造シタル貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ内國并ニ外國ノ貨幣ヲ偽造變造シタル刑ノ區別ニ從ヒ偽造變造シテ未ダ行使セサル者ト同シク處断シ若シ已ニ輸入シテ行使シタル時ハ又偽造變造シテ行使シタル者ト同シク處断スル者トス

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受レ之ヲ行使シタル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減ス
其未ダ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

本條ニ記載シタル者ハ偽造變造ノ事ニ關

與スルニ非スシテ他人ノ已ニ偽造變造シタル事ヲ知り其偽造變造シタル貨幣ヲ取受シテ行使スル者ナリ其情自カラ偽造變造シテ行使スル者ヨリ大ニ輕シ二等ヲ減スル所以ナリ
其已ニ取受スト雖モ未タ行使セサル時ハ他人ニ害ヲ及ホサハルヲ以テ又一等ヲ減スル者トス

第一百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ更ニ解明ヲ要セス本節ノ罪ヲ犯ス者ハ大ニ其後來ヲ豫防セサルヲ得サルト

自カラ明了ナレハナリ

第一百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス
若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

貨幣ヲ偽造變造シ又ハ輸入取受スト雖モ未タ行使セサル前ニ於テ官ニ自首スル時ハ毫モ他人ニ損害ヲ及ホサハルヲ以テ内亂ノ豫備ヲ為シ未タ其事ヲ舉ゲサル前ニ自首スルト同シク大害ノ未タ生セサル前ニ

於テ防遏スルヲ得ルヲ以テ其自新ノ意ヲ
賞シ主刑ヲ免シ止タ三年以下ノ監視ニ付
スル者トス

職工雜役者及ヒ房屋ヲ給與シタル者ハ已
レ自カラ發意シテ此等ノ罪ヲ犯スニ非ス
主トシテ偽造變造スル者ニ使用セラレ且
ツ止タ房屋ヲ給スルニ止ルヲ以テ此等ノ
者ノ自首シタル時ハ監視ノ刑ヲモ附加セ
サル者トス

第九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽
造又ハ變造ナルヲ知リ之ヲ行使シタル者
其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其罰金ハ二圓
以下ニ降スルヲ得ス

總て貨幣ヲ取受スル者ハ初メ之ヲ取受ス
ルノ際偽造變造ノ貨幣タルヲ知ラスト雖
モ已ニ一旦偽造變造ノ貨幣タルヲ知ル
時ハ之ヲ行使ス可カラサル者ナリ何トナ
レハ其偽造變造ノ貨幣ヲ取受シタルハ已
レノ不注意ニ因ル若シ之ヲ使用スルニ至
ル時ハ是ヨリ他人ニ害ヲ被ラシムルヲ以
テナリ本條ハ已ノ不注意ヲ顧ミスシテ妄
リニ他人ニ害ヲ及ホス所ノ貪欲者ヲ罰ス
ル法トス故ニ其刑他ノ罪ニ科スル罰金ト
其方法ヲ異ニシ其行使シタル價額ニ倍ノ
罰金ヲ科スト定メタル者ナリ
其行使シタル金額一圓ニ滿タサル時モ已

二罰金トシテ之ヲ科スル上ハ罰金ノ刑ハ
二圓以下ニ降スヲ得サル刑ナルヲ以テ本
條モ亦二圓以下ニ降スヲ得スト定メタ
ル者ナリ

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽
ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
前節ニ記載シタル貨幣偽造ノ罪ハ其偽造
已ニ成テ行使シタル時初メテ其罪ノ遂ケ
タル者トシ本節ニ記載シタル罪ハ未タ使
用スルニ至ラストモ已ニ一旦偽造ノ成リ
タル時ハ其罪ノ遂ケタル者トシ處斷スル
ノ理由ハ貨幣ニ於テモ假令偽造已ニ成ル

モ未タ之ヲ行使セサル時ハ他人ニ害ヲ及
ホスコナシ然ルニ御璽國璽官印ノ類ハ一
度之ヲ偽造シ置ク時ハ幾回モ之ヲ使用ス
ルヲ得ルヲ以テ偽造已ニ成ル時ハ甚メ危
害ノ生シ易キ者ナリ是レ貨幣ニ於テハ偽
造已ニ成ルモ未タ行使セサル時ハ其罪ノ
遂ケタル者トセス國璽官印ノ類ハ偽造已
ニ成ル時ハ其罪已ニ遂ケタル者ト定メタ
ル所以ナリ

又本節ノ罪ト次節ノ罪トニ於テ其區別ヲ
爲シタルハ次節ノ罪ハ文書ニ係ルヲ以テ
増減變換等ノ所爲ヲ施スヲ得ルモ本節ノ
罪即チ御璽國璽官印ノ類ハ變造ノ成ル可

キ者ニ非ス其字畫模様ヲ本物ニ偽セ之ヲ
造ル時ハ即チ本節掲クル所ノ偽造ノ正否
トス若シ之ヲ偽セ造ルモ字畫ヲ變シ模様
ヲ換ハタル時ハ何ノ用ヲモ爲スヲ得可カ
ラサルヲ以テ本節ノ罪ハ偽造ノ外他ニ増
減變換等ノ下ヲ掲クルヲ要セサル者ナレ
ハナリ

本條ノ文面ニ因レハ其御璽國璽ヲ偽造シ
タル者ト其偽造シタル御璽國璽ヲ使用シ
タル者トノ兩入ノ罪ヲ掲ケタル者ト如シ
ト雖モ已レ自カラ偽造シテ又已レ自カラ
之ヲ使用シタル時モ前ニ解明シタル如ク
本條ノ罪ハ偽造ノ已ニ成リタル時ハ其罪

已ニ遂々タル者トスルヲ以テ亦本條ニ依
テ處分スル者トス

第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽
印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス

各官署ノ印ハ御璽國璽ニ比スレハ之ヲ偽
造スル者アルモ其害ヲ醸ス下御璽國璽ノ
偽造ノ如ク甚タシキニ至ラサルヲ以テ本
條ハ前條ヨリ二等ヲ減降シテ重懲役ニ處
スト定メタル者ナリ

本條各官署ノ印ヲ偽造云々ト記載スト雖
モ大政大臣以下各省ノ長官及ヒ府縣令郡
區長并ニ裁判所長等ノ公事ニ用フル自己
ノ官名姓名ヲ記載シタル印形ハ之ヲ私印

ト見做ス可キ者ニアラサレハ又本條ヲ以テ論セサルヲ得ス

其見認印ハ固ヨリ本條ヲ以テ論スル限リニ在ラサル者トス

第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス

書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第百九十七條 本條第一項產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章トハ官ヨリ物品ノ所有并ニ販賣運輸ヲ許シ又ハ物品ノ性質ヲ證スル爲メ施

ス所ノ者ヲ謂フ其類一々枚舉スルニ暇アラズ今茲ニ之ヲ略ス此記號印章ヲ偽造スル時ハ之ヲ爲メ人ノ權利ヲ害シ政府ノ信憑ヲ損スルノ輕キニ非ス各官署ノ印ヲ偽造スル罪ニ次ク所ノ刑ヲスラ罰スル所以ナリ

本條第二項ニ記載シタル官印ハ止メ官府内ニ於テ用フル所ノ者ニシテ人民ニ對シテ政府ノ命ヲ証スル所ノ者ニアラサレハ其刑前數件ノ者ノ偽造ヨリ大ニ減降シタル者トス

第百九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造

刑去草案審查局

ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ

御璽國璽官印記號印章等ノ影蹟ヲ盗シテ使用スル時ハ其罪輕キニ非スト雖モ豫メ偽造シ置キテ使用スル者ニ比スレハ其情輕シ且ツ其害ヲ生スルヲ偽造ヨリ寡ナシ本條一等ヲ減シタル所以ナリ
自己ノ監守スル國璽官印等ヲ盗シテ使用スル時ハ其國璽官印等自己監守ノ權内ニ在ルヲ以テ其害ヲ生スルヲ餘人ノ之ヲ偽造シテ使用スルニ異ナルナレ因テ監守者ニシテ自カラ此影蹟ヲ盗用スル時ハ偽造

シタル罪ト同シク處分スル者トス

第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ニ記載シタル物件ヲ偽造變造スル時ハ官府ノ權利ヲ妨碍スルヲ輕カラサル者トス然リト雖モ本條ノ罪ハ但官府ノ權利ヲ妨碍スルノミニシテ人民ニ對シ直チニ害ヲ及ホサル者ナリ故ニ本條ノ刑ハ重罪ノ刑ヲ科セスレテ輕罪ノ刑ヲ科スルヲ定メタル所以ナリ

第百九十九條

已ニ貼用シタル各種ノ印紙及
郵便切手ヲ再ニ貼用シタル者ハ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ偽造變造ニ非スト雖モ已ニ一度貼
用シテ廢物トナリタル者ヲ再ニ貼用スル
者ヲ罰スル法ニ係ル其已ニ廢物トナリタ
ル者ヲ再ニ貼用スル時ハ前條ニ同シク官
府ノ權利ヲ害スルヲ少々ナラサル者トス
然リト雖モ本條ノ罪ハ前條ノ罪ニ比スレ
ハ其惡意ヲ貯フルヲ甚タ薄ク且又已ニ廢
物ト爲リタル者ヲ再ニ貼用スルハ其額多
キニ至ル者ニ非サレハ其刑但タ罰金ノミ
ニ止メタル者トス

第二百條

此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サント
シテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シ
テ處斷ス

本節ノ罪ハ其未タ遂ケサル時ニ於テ發覺
スルモ本節ノ罪ヲ犯サントシタル者タル
ノ頗ル判然シ易キ者ナリ又本節ノ罪ハ假
令未タ之ヲ遂クルニ至ラサルモ世害ヲ醸
スノ輕キニ非レハ不問ニ措クヲ得サル所
ノ者トス本條ヲ設ケタル所以ナリ
第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪
ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視
ニ付ス

本條ハ解明ヲ待タスシテ明カナリ故ニ贅

言ヲ加ハス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

本節ニ記載スル罪ハ詔書ヲ偽造及ヒ増減
變換スルヲ除クノ外各條ノ正面ニ就テ之
ヲ見ル時ハ偽造及ヒ増減變換レテ之ヲ行
使シタル時初メテ其罪ノ遂ケタル者ニシ
テ止タ其偽造及ヒ増減變換シタルノミニ
於テハ未タ其罪ノ遂ケサル者ト解セサル
ヲ得ス

然ルニ茲ニ左ノ論ヲ爲シ之ヲ批駁スル者
アリ曰前節ニ記載シタル罪ト本節ノ罪ト
ヲ比照スレハ其權衡ヲ得サル一ナリ即ケ
前節第百九十六條第百九十八條ノ罪ハ産

物商品ニ押用スル記號印章并ニ各種ノ印

紙郵便切手ヲ偽造スル者トス此等ノ物品

ハ已ニ之ヲ偽造スル時ハ使用スルヲ待タ

ス其罪ノ遂ケタル者トシ各其刑ヲ科シタ

ルニ非スマ官ノ文書公債證書ノ如キハ何

故其已ニ偽造シタル者ニ刑ヲ科セサルヤ

解ス可カラサルノ甚シキ者ナリ

然ルノミナラス本節ニ記載シタル罪ハ其

偽造已ニ成ル時ハ未タ之ヲ行使セサルモ

不問ニ措クヲ得可カラサル肝要ノ者アリ

無記名ノ公債証書即チ是ナリ此証書タル

ヤ殆ント紙幣ト其性質ヲ同フシテ世間ニ

流通スル者ナレハ若シ此証書ヲ偽造スル

者アル時ハ未タ之ヲ行使セサルモ若シ一
 旦之ヲ行使スル時ハ世間ニ其害ヲ及ホス
 「殆ント偽造ノ紙幣ヲ行使シタルト異ナ
 ルナシ是レ不權衡ノ第二ナリ
 又官文書ニ於テモ其毀棄シタル者ニ刑ヲ
 科シテ未タ之ヲ行使セサル時ハ増減變換
 シタル者ニ刑ヲ科セサルハ又不權衡ト謂
 ヘサルヲ得スト
 然ルニ右ノ批駁ハ之ヲ實際ニ徴スレハ頗
 ル事理ニ通セサルノ批駁ト謂ハサルヲ得
 ス何トナレハ官ノ文書公債證書ノ如キハ
 其官印ヲ押サスレテ他人ニ對シ効用ヲ爲
 ス者ハ殆ント之レアラサル可シ然ル時ハ

此文書公債證書等ヲ偽造スル者ハ官印ヲ偽
 造スルニ非レハ必ス之ヲ盗用スル者ナリ
 果シテ然ル時ハ官印ヲ偽造及ヒ盗用スル
 ヲ以テ論スルヲ得ルニヨリ本節ノ罪ハ其
 未タ之ヲ行使スルニ非レハ其罪ノ遂ケサ
 ルモノトスルモ之ヲ不權衡ト謂フヲ得ス
 然ルニ官ノ文書ヲ増減變換シタル者未タ
 之ヲ行使セサル時其罪ノ遂ケサル者トス
 ルハ批駁者ノ説ク所ノ如ク穩カナラサル
 者アリ殊ニ其目的ハ異ナルモ官文書ヲ毀
 棄スル者ニ其刑ヲ科シテ増減變換シタル
 者ニ其刑ヲ科セサルハ稍々本節ノ不備ト
 謂フ可シ他日必ス此不備ヲ補フ事アル可

シ
右ノ數論ニ及シテ本節ノ罪ハ其偽造ニ係
ル者ハ未タ行使セサルモ本節ノ刑ニ處シ
其増減變換ニ係ル者ハ固トアル所ノ者ヲ
増減變換スルヲ以テ行使ヲ待テ其刑ヲ科
スルノ義ナリ即ケ本節中各條ニ記載シタ
ル又ハノ二字ハ前後ノ文ヲ截斷シタル者
ニシテ偽造ノフハ行使ノ文字ニ冠ラスト
論スル者アリ是レ無益ノ説ト謂ツ可シ何
トナレハ本節并ニ以下數節皆行使スルヲ
目的ト爲シ其刑ヲ定メタルヲ以テ本節ニ
限リ偽造スルノミニ於テ其刑ヲ科スルト
スルハ不當ノ見解ト謂ハサルヲ得ス

刑法草案卷之五

第二百二條・詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタ
ル者ハ無期徒刑ニ處ス

其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ

本條ハ偽造及ヒ増減變換シタル時ハ其罪
已ニ遂ケタル者ト爲シタル編成ニ係ルヲ
以テ其之ヲ行使スルモ亦行使セサルモ等
シク無期徒刑ニ處スル者トス
本條他入ノ已ニ偽造及ヒ増減變換シタル
情ヲ知テ之ヲ行使シタル者ヲ揭ケスト雖
モ若シ此等ノ事ヲ爲ス者アル時ハ假令其
偽造及ヒ増減變換ヲ爲スニ關與セサルモ
亦不問ニ措クヲ得ス偽造及ヒ増減變換ノ
共犯トシテ論ス可シト謂フ者アリ然ルニ

刑法草案卷之五

其情ヲ知テ行使スル者ハ初メ偽造及ク増

刑法第... 第...

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

第四節

私印私書ヲ偽造スル罪

第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタ
ル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ他人ノ印影ヲ盗用シタル者ハ一等ヲ減
ス

本條ハ一般人民ノ私印即チ實印ヲ偽造シ
テ使用スル者及ヒ其印影ヲ盗用スル者ヲ
罰スル法ニ係ル官印ヲ偽造シテ使用スル
者ニ比スレハ其害大ニ輕キ者トス故ニ其
罪重罪ノ刑ヲ科セスシテ輕罪ノ刑ニ止ム
ル者トス
官吏ノ官衙ニ於テ用フル所ノ見認印ヲ偽

刑法第... 第...

造シテ受用スル者アル時ハ第九十五條ニ記載スル所ノ官印偽造ヲ以テ論ス可キ者ニ非ストセハ本條ニ依テ處斷セントスル乎本條ハ固ト官吏人民ヲ別タス私事ニ用フル所ノ實印ヲ偽造シテ使用スル者ヲ罰スル法ニシテ其見認印ヲ偽造スル者ハ本條ヲ以テ論スルヲ得ス果シテ然ル時ハ官吏ノ見認印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ終ニ其罪ヲ論スルヲ得サル乎抑モ官吏ノ見認印ヲ官府ニ於テ使用スルハ文書ニ押用スルニ非レハ其用ヲ為サ、ルヲ以テ若シ已ニ文書ヲ偽造スル時ハ前節其罪ヲ定メタルニヨリ此見認印ヲ偽造シテ使用ス

ル者ハ時^前二節并ニ本節ニ於テモ別ニ記載セサル者ナル可シ

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス可キ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形證書ニ詐偽ノ裏書ヲ為シテ行使シタル者亦同シ

本條ニ記載シタル證書并ニ手形ハ專ラ銀行類ノ商業ヲ為ス者ノ行使スル所ノ者ニシテ普通人民ノ行使スル所ノ者ニ非ス其證書ノ種類ハ國立銀行條例第六十三條第六十四條ニ明了ナリ即チ民間ニ流通ス

川去京案審査局

ル者ニシテ其性質殆ント貨幣ニ類似スル者ナリ若シ此證書手形ヲ偽造又ハ増減變換シテ行使スル者アル時ハ其害タル普通ノ證書ヲ偽造シテ行使スルノ比ス可キ者ニ非ス重罪ノ刑ヲ以テ罰スル所以ナリ

第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條第六項ニ記載シタル證書トハ前條記

載スル所ノ證書ト違ヒ俗ニ所謂證文ナル者ニシテ官吏及ヒ農工商ヲ分タス總テ契約ヲ為スニ用フル證書ヲ謂フ

第二項ニ記載シタル者ハ人ト契約ヲ為スニ用フル文書ニ非ス例ハ書簡及ヒ報知書ノ類トス故ニ其刑前項ヨリモ減降シタル者トス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處断ス

第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

刑部法律事務司

本二條解明ヲ要セス故ニ茲ニ之ヲ贅セス
第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造
スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シテ
行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮
ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官
印ノ各本條ニ照シテ處斷ス
官ヨリ各人民ニ免狀鑑札ヲ附與スルハ藝
術職業ヲ證明シ各其生ヲ營ニ世ヲ濟ルノ
道ニ放テ互ニ守ル所ヲ固フシ他人ニ妨害
ヲ及ホサ、ラシムル為メナリ若シ又アリ
此ノ免狀鑑札ヲ偽造シテ行使スルトアラ

シ乎是ヨリ他人ノ藝術職業ヲ妨ケ官人々
ヲシテ其生ヲ營ニ世ヲ濟ルノ道ヲ固クセ
シムル為メ設クル所ノ規律ヲ錯乱スルニ
至ル者トス是レ本條ヲ設ケテ免狀鑑札ヲ
偽造シテ行使スル者ヲ罰スル所以ナリ此
類ノ罪ハ畢竟自己一個ノ貪欲ヲ擅ニスル
為メ犯ス所ノ者ニ係ル因テ禁錮ノ期限ハ
長カラスト雖モ爾餘ノ罪ニ比スレハ其罰
金ヲ多ク科シタル者トス
本條ノ罪モ亦官ヨリト付スル所ノ者ヲ偽
造スルニ保ルヲ以テ官ノ文書ヲ偽造スル
ニ同シク官印ヲ偽造又ハ盜用スルトアル
可キ者ナリ若シ官印ヲ偽造又ハ盜用スル

刑部法律事務司

時ハ其害輕カラサルヲ以テ偽造ノ各本條ニ照シ處斷スル者トス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所為ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
官吏情ヲ知テ其免狀鑑札ヲ下付シタル者ハ一等ヲ加フ

前條ハ偽造シテ行使スル罪ヲ揭ケタリ本條ハ偽造スルニ非ス止タ自己ノ屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所為ヲ以テ免狀鑑札ヲ受ケタルニ非ルヲ以テ其刑前條ノ半ニ減シタル者トス

本條免狀鑑札ヲ下付シタル官吏ニ一等ヲ加ヘタルハ其官吏タルノ身分ニシテ其任ヲ瀆シタルヲ責ムル者トス

前後ノ諸條ハ行使シタル時其罪ノ遂ケタル者ニシテ未タ行使セサル時ハ其罪未タ遂ケサル者トス本條ニ至リ特リ其免狀鑑札ヲ受ケタルノニ於テ已ニ其罪遂ケタル者トシタルハ其免狀鑑札ハ未タ之ヲ行使セサルモ詐偽ノ所為ヲ以テ其免狀鑑札ヲ受ケタルハ已ニ遂ケタル者ナリ且ツ此下付シタル免狀鑑札ハ固ト偽造ノ者ニ非レハ其之ヲ行使スルト否トヲ分タス本條ニ依テ處斷スル者トス

第二百十五條

公務ヲ免カレ可キ為ノ醫師ノ
氏名ヲ用ヒ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタ
ル者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ
分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル
者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條

陸海軍ノ徵兵ヲ免カレ可キ為
ノ疾病ノ證書ヲ偽造シテ行使シタル者及ヒ
囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル醫師
ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

前章第九節第七十七條以下ニ於テハ故
ナクシテ公務ヲ行フヲ肯ニセサル罪ヲ

定メタリ本二條ハ疾病ノ證書ヲ偽造シテ

公務ヲ免カレントシタル者ヲ罰スル法ト

ス即チ前章第九節ノ罪ト本二條ノ罪ト其

事ノ輕重ニヨリ其刑互ニ輕重アリト雖

モ若シ疾病ノ證書ヲ偽造シテ公務ヲ免カ

レントシタル者ハ前章第九節ノ刑ト比照

シ重キニ從テ處斷セサルヲ得ス

本二條ニ記載スル囑託ヲ受ケテ詐偽ノ證

書ヲ造リタル醫師ノ罪ハ已ニ詐偽ノ證書

ヲ造リ囑託者ニ交付シタル時ハ囑託者未

タ之ヲ行使スルニ至ラサルモ本二條ノ刑

ヲ免カレ、一ヲ得スト論スル者アリ然ル

ニ本二條ノ文面ニ因レハ詐偽ノ證書ヲ造

刑罰法典 卷之四 審判部

テ交付スルモ囑託者未タ之ヲ行使セサレ
ハ本二條ニ依テ處断スルヲ得スト解セサ
ルヲ得ス何トナレハ本二條ニ於テ詐偽ノ
證書ヲ造テ之ヲ交付シタル者ト記載セス
シテ囑託ヲ受ケ其詐偽ノ證書ヲ造リタル
者トアレハナリ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ增
減變換シテ行使シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同
シ

本條ハ解明ヲ待タズシテ明カナリ前數條
ニ於テ偽造シテ行使シタル者ノミヲ掲ケ
其増減變換シテ行使シタル者ヲ掲ケサル
ヲ以テ本條其増減變換シテ行使シタル者

ヲ一條ニ纏メテ記載シタルニ過キサレハ
ナリ

第六節 偽證ノ罪

第二百十八條 刑事ニ関スル證人トシテ裁判

所ニ呼出サレタル者被告人ヲ曲庇スル為メ
事實ヲ掩蔽シテ偽證ヲ為シタル時ハ左ノ例
ニ照シテ處断ス

- 一 重罪ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者ハ二月
以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
- 二 輕罪ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者ハ一月
以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ヲ曲庇スル為メ偽證シタル者ハ違
警罪ノ本條ニ依テ處断ス

刑事裁判所ニ於テ證人トナリ證據ヲ申告
スルハ正當的實ニシテ少シモ變換ス可カ
ラサル者トス若シ證人トナリ證據ヲ申告
スル者被告人ヲ曲庇又ハ陷害スル為メ故
ラニ詐偽ノ申告ヲ為スニ於テハ之レカ為
メ罪アル者ヲシテ其罪ヲ免カレシメ又罪
ナキ者ヲシテ罪ヲ被ラシムルニ至ル其害
實ニ輕カラサル者トス是レ此節ノ設ケア
ル所以ナリ
本條ハ被告人ヲ曲庇シテ其罪ヲ免カレシ
ムル為メ事實ヲ掩蔽シ偽證ヲ為シタル者

ヲ罰スル法ニ係ル曲庇シテ被告人ノ罪ヲ
免カレシメントスル者ハ罪ナキ者ヲシテ
罪ニ陷ラシメントスル者ヨリ其害輕シ何
トナレハ罪ナキ者ヲ罪ニ陷ルハ時ハ其陷
レラルハ者ノ患苦殆ント堪フ可カラサル
ニ至ル者トス曲庇シテ罪ヲ免カレシムル
者ハ但官權ヲ害スルニ止リテ他人ニ害ヲ
及ホササル者ナリ故ニ被告人ヲ陷害スル
為メ偽証ヲ為シタル者ノ受ク可キ刑ノ半
以下ニ處スルヲ定メタル者ナリ其刑ノ
輕重ハ本條并ニ第二百二十條ニ明了ナル
ヲ以テ茲ニ贅言ヲ加ヘス
第二百十九條 偽證ノ為メ被告人正當ノ刑ヲ

免カレタル時ハ偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ
各一等ヲ加フ

前條ハ偽証ヲ為シタルノニニシテ未タ被
告人適當ノ刑ヲ免カレサル時ニ於テ受ク
可キ所ノ刑トス本條ハ偽證ノ為メ被告人
適當ノ刑ヲ免カレタル時處断スルノ法ニ
係ル故ニ其刑前條ニ一等ヲ加ヘタル者ナ
リ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル為メ偽證ヲ
為シタル者ハ左ノ例ニ照シテ處断ス
一重罪ニ陷ラシム為メ偽證シタル者ハ二年
以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ニ陷ラシムル為メ偽證シタル者ハ六
月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
三違警罪ニ陷ラシムル為メ偽證シタル者ハ
一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以
上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ハ即チ人ヲ罪ニ陷ル、為メ偽證ノ為
メ偽證ヲ為ス者ヲ罰スル法トス其刑ノ權
衡ハ法文ニ明了ナルヲ以テ贅言ヲ加ヘス
第二百二十一條 偽證ノ為メ被告人刑ニ處セ
ラレタル後ニ於テ偽證ノ罪發覺シタル時ハ
偽證者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐ノ刑前條ニ
記載シタル偽證ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例

刑罰法典卷之四

ニ照シテ處斷ス
其刑期限内ニ於テ偽證ノ罪発覺シタル時ハ
現ニ経過シタル日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ
減スルヲ得但減シテ前條偽證ノ刑ヨリ降
スヲ得ス

本條ハ偽證ノ為メ被告人刑ニ處セラレタ
ル時偽證ヲ為シタル者ヲ其刑ニ反坐スル
法ヲ定メタル者ナリ即チ重罪ニ陷ル、為
メ偽證シタル時被告人重罪ニ處セラレタ
ル時ハ其刑ニ坐シ輕罪又ハ違警罪ニ陷ル
ニ為メ偽證ヲ為シ被告人輕罪又ハ違警罪
ニ處セラレタル時ハ其刑ニ坐スルヲ反坐
ノ法トス然ルニ重罪ニ陷ル、為メ偽證ヲ

為シタルニ被告人前條第一項ニ記載シタ
ル刑ヨリ輕キ刑ニ處セラレタル時又ハ輕
罪ニ陷ル、為メ偽証ヲ為シタルニ前條第
二項ニ記載シタル刑ヨリ輕キ刑若クハ違
警罪ノ刑ニ處セラレタル時ハ反坐ノ刑前
條偽證ノ刑ヨリ輕キヲ以テ此時ニ方レハ
反坐ノ法ヲ用セス前條ニ從ヒ偽證シタル
刑ニ處スル者トス
右ニ解明シタル如ク被告人偽證ノ為メ重
罪又ハ輕罪ニ處セラレタル時ハ偽證者ヲ
其被告人ノ科セラレタル刑ニ處スルヲ反
坐ノ法トスト雖モ偽證ノ為メ刑ニ處セラ
レタル者其刑期限内ニ在テ偽證ノ為メ罪

二 陷リタルノ斃覺スル時ハ其被告人ノ
 被ル所ノ實害ニ於テハ輕キヲアル可キ者
 ナリ若シ被告人ノ被タル實害輕キ時ハ偽
 證者ノ罪惡ム可キモ其被告人ノ被タル日
 數ニ照シ偽證者ノ受ク可キ反坐ノ刑ヲ減
 スルヲ得ル者トス然ルニ又其反坐ノ刑
 ヲ減スルモ前條ニ記載シタル偽證ノニニ
 止ル刑ヨリ降スヲ得サル者トス
 第二百二十二條 偽證ノ為メ被告人死刑ニ處
 セラレタル時ハ反坐ノ刑一等ヲ減ス其未タ
 刑ヲ執行セサル前ニ於テ斃覺シタル時ハ二
 等ヲ減ス
 若シ被告人ヲ死ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ偽證

ヲ為シタル時ハ死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執
 行セサル前ニ於テ斃覺シタル時ハ一等ヲ減
 ス
 本條第一項ハ死刑ニ陷ル、ノ目的ヲ以テ
 偽證シタルニ非ス但其被告人ヲ惡シテ重
 キ罪ニ陷ル、為メ偽証シタルニ被告人ニ
 於テ終ニ其偽證ノ為メ死刑ニ處セラレタ
 ル時ニ處分ヲ謂フ故ニ反坐ノ刑一等ヲ減
 スル者トス其未タ死刑ヲ執行セサル時偽
 證ノ罪斃覺スル時ハ被告人死ニ致ラサル
 ヲ以テ二等ヲ減スル者トス
 後項ハ被告人ヲ死ニ陷ル、為メ偽証シタ
 ルニ係ルヲ以テ若シ被告人其偽證ノ為メ

死刑ニ處セラレタル時ハ偽証者ヲ死刑ニ
反坐スル者トス其未タ死刑ヲ執行セサル
時ニ於テ發覺スル時ハ前項ニ同シク被告
人死ニ致ラサルヲ以テ假令死刑ニ陷ル、
目的ヲ以テ偽証ヲ為スモ一等ヲ減スル者
トス

第二百二十三條

民事商事又ハ行政裁判ニ関

シテ偽証ヲ為シタル者ハ一月以上一年以下
ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス
人ノ罪ヲ免カレシメ又ハ人ヲ罪ニ陷ル、
為メニ非スト雖モ民事商事又ハ行政裁判
ヲ為ス時ニ於テ偽証ヲ為ス時ハ之レカ為

ノ原告被告ノ一方ニ於テ其害ヲ被ムル
必セリ本條一月以上一年以下ノ禁錮五圓
以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルトニ定メ
タル所以ナリ

第二百二十四條

鑑定又ハ通事ノ為メ裁判所

ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ為シタル時
ハ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處
断ス

鑑定人通辯者等ニテ被告人ヲ曲庇又ハ陷
害スル為メ若クハ民事商事行政裁判ヲ為
ス時ニ於テ妨害ヲナス為メ故ラニ詐偽ノ
陳述ヲ為ス時ハ其害ノ及フ所口鑑定人通
辯者ニ非サル者ノ偽證ヲ為スト異ナルト

ナシ前數條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處断スル所以ナリ

第二百二十五條

賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ

囑記シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ為サシメタル者ハ亦偽證ノ例ニ同シ

賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証及ヒ偽リノ鑑定通辨ヲ為サシムル者ハ但己レ自カラ偽証及ヒ偽リノ鑑定通辨ヲ為スト人ニ囑託シテ為サシムルトノ違ヒアルノミニシテ其被告人ヲ曲庇又ノ陷害セシトスル目的及ヒ原被一方ニ對シ害ヲ及ホサントスル目的ニ於テ更ニ異ナル所ナキヲ以テ自カラ偽証及ヒ偽リノ鑑定通辨ヲ為

シタルト同シク所断スル所以ナリ
第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ

タル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

被告事件ノ裁判ヲ為スニ臨ミ苟モ詐偽ノ証據ヲ陳述スル時ハ之レカ為メ裁判ノ妨害ヲ為スノミナラス原被ノ一方ニ對シ害ヲ及ホスル輕カラサル者トス然ルニ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前自首スル時ハ未タ官權ヲ害スルニ至ラス及ヒ原被一方ニ對シ害ヲ及ホサルヲ以テ本刑ヲ免スル者トス且ツ此自首ヲ以テ其罪ヲ免スル時ハ自然真實ノ証據ヲ申告セシムル媒ト

モナルヲ以テ其未夕宣告ヲ為サ、ル前ニ
於テ自首スル者ハ其罪ヲ免スル所以ナリ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シ
テ販賣シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁
錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加
ス但官ノ記号印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル
時ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處
斷ス

官度量衡ノ制ヲ立テ其定規ヲ一ニシ一般
ニ其定規ニ從フタル度量衡ヲ使用セシム
ルハ一般人民ノ利益ヲ慮ル者ニシテ若シ
此度量衡ニ一定ノ制規ナカラシメハ人々

日常生ヲ營ム道ニ於テ信ヲ置ク所ナク其
不便實ニ計ル可カラサルニ至ル者ナリ故
ニ度量衡ヲ製造スル者及ヒ之ヲ使用スル
者ハ嚴ニ其制規ヲ守ラシメスンハアル可
カラサル者トス今其度量衡ヲ偽造變造シ
テ販賣スル者アル時ハ之カ為メ人民日常
營生ノ道ヲ妨碍スル寡ナカラサルヲ以テ
本條度量衡ヲ偽造及ヒ變造シテ販賣スル
者ヲ輕罪中ノ最モ重キ二年以上五年以下
ノ重禁錮ニ處スル者トス
本條但以下官ノ記号印章ヲ偽造又ハ盜用
シタル時云々ト掲ケタルノ理由ハ本條ノ
罪ヲ犯ス者其目的止夕度量衡ヲ偽造及ヒ

變造スルニアルヲ以テ又或ハ官ノ記号印章ヲ偽造又ハ盗用スルヲアルモ本條ニ依テ處斷スルト疑ヲ起ス者アルモ計ル可カラサルヲ以テ特ニ此ノ但以下ノ文字ヲ加ヘ官ノ記号印章ヲ偽造又ハ盗用スル者アル時ハ其害輕カラサルニヨリ假令其目的度量衡ヲ偽造及ヒ變造スルニ在ルモ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スト特ニ人ヲシテ注意セシメタル者ナリ

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス本條ニ掲ケタル者ハ初メヨリ偽造及ヒ變造ヲ為スル意アルニ非ス止夕他人ノ偽造及

ヒ變造シタル度量衡ナルヲ知テ販賣スル者ナルヲ以テ其意ヲ設ケルノ前條ノ犯人ニ比スレハ其夕輕シ一等ヲ減シテ處斷スル所以ナリ

第二百二十九條 高賈農工定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シタル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ其度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

高賈農工等ノ定規ヲ増減シタル度量衡ヲ所有スルハ必ス不正ノ利ヲ得ントスル者ナリ若シ此度量衡ヲ使用シテ不正ノ利ヲ

得ルニ至ル時ハ必ス他人ニ損害ヲ及ホス者トス故ニ此等ノ者ノ此度量衡ヲ所有スル時ハ未タ他人ニ損害ヲ及ホサルモ本條ノ刑ニ處シ己ニ他人ニ損害ヲ及ホシタル時ハ詐偽取財ヲ以テ論スル所以ナリ本條第二項利ヲ得タルト謂フ文字ハ他人ニ損害ヲ及ホシタル義ト解スルヲ可トス何トナレハ他人ニ損害ヲ及ホサル時ハ詐偽取財ヲ以テ論スルヲ得サレハナリ

第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

本條ハ己レ自カラテ意シテ偽造變造ヲ為

刑法草案卷之四

シ其利ヲ得シタル者ヲ罰スル法ニ非ズ但人ノ囑託ヲ受ケテ偽造變造ヲ為シ其囑託シタル人ニ交付スルニ過キサル者ヲ罰スル法トス故ニ其刑囑託者ニ一等ヲ減スル者トス

本條ニ於テ注意ヲ要スルハ囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減スト記載シタル文字即チ是ナリ囑託シタル犯人トハ専ラ高賈農工等其度量衡ヲ使用シテ利ヲ圖ル者ノ謂ニシテ普通人民ノ囑託ヲ受ケ其日常用ナル所ノ度量衡ヲ造テ之ニ與フルモ本條ヲ以テ論ス可キ者ニ非ヌ何トナレハ普通人民ノ此度量衡ヲ使用スルニ本刑法

刑法草案卷之四

其罪ヲ掲ケサルヲ以テナリ

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ

以テ其屬籍身分氏名年齢職業ヲ詐稱シタル

者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ

服飾徽章若クハ内外國ノ勲章ヲ僭用シタル

者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本節ニ於テハ何ノ為メニ屬籍身分氏名年

齡職業及ヒ官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服

飾徽章及ヒ勲章ヲ僭用スルヤ其目的ハ掲

ケスト雖モ若シ他ニ目的ノ在ル有リテ本

節ノ罪ヲ犯ス倫至ル時其目的トシタル所

ノ罪重キ時ハ其目的トシタル罪ニ處スル

ハ當然ノ事トス然ルニ其目的トシタル事

ノ未タ外面ニ發露セサル時ハ其目的ヲ尋

子テ罪トスルニ由テキラ以テ本節ニ於テ

ハ其目的ノ何事ニ有ルヤヲ記載セス但タ

詐稱僭用等ノ所為ヲ以テ官署ヲ侮慢シ世

人ヲ欺罔スル罪ヲ定メタル者ナリ第二百

三十一條ノ罪ハ官署ニ對シ止タ屬籍身分

姓名年齢職業等ヲ詐稱スルニ係ルヲ以テ其

事タル甚ク輕シ二圓以上二十圓以下ノ罰

金ニ處スル所以ナリ第二百三十二條ノ罪

ハ其所為稍々重キヲ以テ二月以下ノ禁錮

ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加スル者ト
ス

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其
數ヲ増減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕
禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

本節記載スル所ノ公撰ノ投票トハ公事ヲ
議スルニ於テ其議負ヲ撰舉スル所ノ投票
ヲ謂フ假令其構造ノ大ニシテ公撰ノ形ヲ
以テ投票ヲ為シ其役負ヲ撰舉スルトアル
モ諸會社ノ役負ヲ撰舉スルカ如キハ決シ
テ本節ヲ以テ論ス可カラサル者ナリ即チ

本節ノ罪ハ公事ヲ議スル議負ヲ撰舉スル

投票ヲ偽造及ヒ増減スル者ナルヲ以テ其

公事ノ大小輕重ニヨリ(例ハハ府縣會ノ公

事ト町村會ノ公事ト大小輕重アルカ如シ)

其投票ヲ偽造及ヒ増減スル處ノ罪ニ於テ

刑ノ範圍ヲ廣クシ其公事ノ大小輕重ニ

應シ的當スル所ノ刑ヲ科セシムルヲ定

メサルヲ得サル者アリ本節掲クル所ノ刑

ノ短期ヲ見ル可シ本刑法中各條ニ記載シ

タル刑期ニ比較スレハ其短期甚ク短キ者

ナリ是レ暗ニ同シク投票ヲ偽造及ヒ増減

スルモ其議スル所ノ公事ノ大小輕重ニ應

シ判事ヲシテ的當スル刑ヲ科セシメン為

ノ尔餘ノ刑ト違ヒ大ニ其刑ノ短期ヲ短シタル者ナリ

本條ハ普通ノ投票者投票者ニ非ルモ投票ヲ検査計算スル等ノ事ニ関セサル者ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ヲ罰スル法トス此等ノ事ヲ為ス者アル時ハ投票ノ害トナルヲ輕キニ非ルモ未タ甚シキニ至ル者ニ非レハ一月以上一年以下ノ輕禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スル者トス

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ為シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ投票ヲ検査計算スル任アル者ニ非スシテ普通ノ撰擧人並ニ被撰擧人ノ犯シタル罪ヲ罰スル法トス前條ノ罪ハ投票ヲ偽造シ又ハ増減スルニ係ルヲ以テ其罪輕キニ非ルモ賄賂ヲ授受シテ投票ヲ為スカ如ク其害重キニ至ラス即チ賄賂ヲ以テ投票ヲ為サシメ又賄賂ヲ授ケテ投票ヲ為ス時ハ其公撰ノ法ヲ害スルヲ頗ル重キ者トス殆シト前條ニ倍シタル刑ニ處スル所以ナリ

第二百三十五條 投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ偽造シ又ハ増減シタル時

ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以
上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

投票ヲ檢査シ又ハ其數ヲ計算スル任アル
者ニシテ其投票ヲ檢査計算スル時ニ方リ
其投票ヲ偽造又ハ増減スル時ハ公撰ノ法
ヲ害スルノ前二條ニ比スレハ頗ル重シ故
ニ其刑ヲ更ニ重クシタル者トス

第二百三十六條 調書ヲ造リ投票ノ結局ノ報
告スル者其數ヲ増減シ其他詐偽ノ所為アル
時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ハ已ニ投票ヲ為シ終リシ後其投票ヲ
為シタル順序投票ヲ得タル人負及ヒ其投

票ヲ得タル人ノ票數等ヲ調書ニ造リ報告
ヲ為ス任アル者ニシテ其投票ノ數ヲ増減
シ其他詐偽ノ所為ヲ為シタル罪ヲ罰スル
法トス此責任アル者ニシテ投票ヲ増減シ
其他詐偽ノ所為ヲ為ス時ハ殆ント正シク
為シタル投票ヲ滅却シ盡スニ至ルモ知ル
可カラズ其公撰ノ害タル實ニ計ル可カラ
サル者ナリ本條輕罪中ノ最モ重キ刑ヲ科
スル所以ナリ

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ
又ハ之レヲ販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

阿片烟ノ人ノ健康ニ害アルト喋々スルヲ
要セスシテ明カナルヲ以テ今茲ニ之ヲ贅
セス本條ハ即チ其阿片烟ヲ輸入シ又ハ之
ヲ製造及ヒ販賣スル者ヲ罰スル法トス聞
ク所ニ據レハ阿片烟ハ少シク之ヲ吸食ス
レハ頗フル心氣ヲ爽快ナラシムルモ習テ
之ヲ吸食スル時ハ大ニ人ノ健康ヲ害スル
者ナリ且ツ一度之ヲ吸食スル時ハ終身止
ムルト能ハサルニ至ル者ナリト是レ嚴ニ
阿片烟ノ輸入製造販賣ヲ禁セサルヲ得サ
ル所ノ者トス本條有期徒刑ヲ以テ罰スル
トニ定メタルハ其理由正ニ此一點ニ在リ
トス

陸軍部海軍部警察部衛生部
陸軍部海軍部警察部衛生部
陸軍部海軍部警察部衛生部

第二百三十八條

阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ
輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ
輕懲役ニ處ス

本條ハ阿片烟ヲ吸食スル器具ヲ輸入シ又
ハ之ヲ製造販賣スル者ヲ罰スル法トス此
器具ヲ輸入製造販賣スル時ハ其害輕キニ
非ルモ但吸食ノ器具ニ係ルヲ以テ阿片烟
ヲ輸入製造販賣スル者ニ比スレハ固ヨリ
其害輕シトス輕懲役ニ處スル所以ナリ

第二百三十九條

稅關官吏情ヲ知テ阿片烟及
其器具ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑
照シ各一等ヲ加フ
稅關官吏ハ阿片烟及ヒ之ヲ吸食スル器具

陸軍部海軍部警察部衛生部
陸軍部海軍部警察部衛生部
陸軍部海軍部警察部衛生部

ヲ輸入スル者アル時ハ嚴ニ之ヲ制止セサルヲ得サル責任アル者トス今此官吏ニシテ阿片烟及ヒ之ヲ吸食スル器具ナルヲ知テ之ヲ輸入セシムル時ハ其害實ニ計ル可カラサルニ至ル者トス前二條ノ刑ニ各一等ヲ加ヘテ處斷スル所以ナリ

第二百四十條

阿片烟ヲ吸食スル為メ房屋ヲ

給與シテ利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

本條ハ自己ノ利ヲ圖リ房屋ヲ給與シテ阿片烟ヲ吸食セシメ又ハ人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシムル者ヲ罰スル法トス本條

ノ罪ハ之ヲ輸入製造スル者ニ比スレニ其害輕シ何トナレハ房屋ヲ給與シ又人ヲ引誘シテ吸食セシムルハ其人員ニ限リアリト雖モ輸入及ヒ製造販賣ヲ為ス者ハ何人ニ限ラス買取セシムルヲ得且ツ阿片烟ヲ吸食セントスル者モ輒スク之ヲ買取スルヲ得ルモハ房屋ヲ給與スル者及ヒ引誘シテ吸食セシムル者ハ吸食ノ器具ヲ輸入製造販賣スル者ト其權衡ヲ同シ輕懲役ニ處スル者トス

第二百四十一條

阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二

一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

本條ハ阿片烟ヲ吸食スル者ヲ罰スル法ト
ス抑モ已レ自ラ好シテ之ヲ吸食スル者ハ
理ヲ以テ之レヲ謂ヘハ其身ノ健康ヲ害ス
ルニ至ルモ之ヲ罰スルヲ得サル者ノ如シ
然ルニ他人ノ之ニ習テ吸食スル時ハ終ニ
一般人民ノ健康ヲ害スルニ至ル者ナルヲ
以テ假令自己一身ノ快樂ヲ取ル為メ吸食
スル者モ不問ニ措クヲ得サル者トキ本條
ヲ以テ之ヲ罰スル所以ナリ

第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所
有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下
ノ重禁錮ニ處ス

己ニ阿片烟ヲ吸食スル者ヲ罰スル時ハ阿
片烟及ヒ之ヲ吸食スル器具ヲ所有スル者
并ニ受寄シタル者ニ於テモ不問ニ措ク
ヲ得サル者トス本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢
シ因テ之ヲ用フルヲ能ハサルニ至ラシメタ
ル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ
二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罪モ多クハ外ニ目的トスル事アリ
テ犯スニ至ル者ナル可シト雖モ未タ外面
ニ発露セサル時ハ其目的ノ何事ニアルヤ
思察スルヲ得ス然リト雖モ人民日常其飲

陸軍部法律草案審査局

料ニ供スル處ノ淨水ヲ汚穢シ之ヲ用フル
不能ハサルニ至ラシメタル時ハ已ニ他人
ニ對シ幾分カノ妨碍ヲ及ホス者ナリ又假
令外ニ目的トスル所ノ事ナシト雖モ本條
ノ所為ヲ為ス者ハ不問ニ措クヲ得ヘカラ
サル者トス本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二百四十四條

人ノ健康ヲ害スヘキ物品ヲ

用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ
一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上
三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前條ハ淨水ヲ汚穢スルニ止ルモ本條ハ健

康ヲ害スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又

ハ腐敗セシムル者ナルヲ以テ他人ノ妨碍

タルヲ前條ニ比スレハ更ニ甚シトス故ニ
其刑前條ヨリ數等重クシタル者トス

第二百四十五條

前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾

病又ハ死ニ致シタル者ハ殴打創傷ノ各本條

ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本章第四節第五節ノ罪ヲ犯シ人ヲ疾病及

ヒ死ニ致シタル時ハ該二節ノ罪タル止夕

一時ノ利ニ惑ヒ官許ヲ受クヘキヲ官許ヲ

受ケス又規則ニ從フ可キヲ規則ニ違背シ

テ人ヲ疾病及ヒ死ニ致シタルニヨリ過失

殺傷ヲ以テ論スト雖モ(第二百五十三條ハ

該條ニ其解アリ)前條ノ罪ハ人ノ健康ヲ害

スヘキ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗

陸軍部法律草案審査局

セシムル者ナルヲ以テ其所為ニ於ケル該
二節ノ罪ヨリ重ク又其惡意ヲ構造スル
該二節ノ罪ノ比スヘキ者ニ非ス因テ此質
ノ變シ又ハ腐敗シタル水ヲ服用シテ疾病
及ヒ死ニ至ル者アル時ハ殴打創傷ノ各本
條ニ照シ重キニ從テ處斷スル者トス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ為メ設ケタル
規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ
物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年
以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓
以下ノ罰金ニ處ス
傳染病ノ恐ル可キハ世人ノ周ク知ル所ナ

リ又此等ノ事ヲ喋々スルハ本刑法ヲ解ス
ル主思ニ非サレハ今茲ニ之ヲ贅セス本條
ハ傳染病ノ流行スル時ニ當リ入港シタル
者ノ豫防規則ニ違背シタル時之ヲ罰スル
法トス傳染病流行地方ヨリ渡來スル船舶
ニハ其病ニ憾染シタル人ヲ乗載シタルモ
計ル可カラス又憾染シタル人ナレト雖モ
病毒ニ觸レタル物品ヲ乗載スルトアル可
キラ以テ其國ノ内外ニ在ルヲ論セス傳染
病ノ流行スル時ハ船舶ノ出入スル港口ニ
於テハ必ス規則ヲ設ケテ嚴ニ之ヲ豫防ス
ル者トス今此規則ニ違背シテ入港シタル
船舶ヨリ上陸ヲ為シ又ハ物品ヲ陸地ニ運

搬スル時ハ實ニ度ル可カラサル危害ヲ主
スルニ至ルヲ以テ本條嚴ニ此等ノ事ヲ為
ス者ヲ罰スルヲ定メタル者トス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又
ハ人ノ犯スルヲ知テ制止セサル者ハ前條ノ刑
ニ一等ヲ加フ

船舶ノ長タル者ハ豫防ノ規則ハ嚴ニ守ラ
サルヲ得サル者ナリ又此規則ニ違背スル
者アル時ハ嚴ニ之ヲ制止セサルヲ得サル
所ノ者トス今此任ヲ顧ミス自カラ豫防ノ
規則ニ違背シテ上陸ヲ為シ又ハ物品ヲ陸
地ニ運搬シ且ツ他人ノ此等ノ事ヲ為スラ
知テ制止セサル時ハ船長ノ任ヲ遺忘スルノ

ミナラス普通ノ者ノ此規則ニ違背スルヨ
リ更ニ危害ヲ生スルニ至リ易キ者トス故
ニ本條普通ノ人ノ犯シタル罪ニ一等ヲ加
ヘ處斷スル者トス

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ
違背シテ流行地方ヨリ他處ニ出タル者ハ十
五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一地方ニ於テ專ラ傳染病ノ流行スル時ハ
規則ヲ設ケテ其地方ヨリ他處ニ出ルヲ禁
スルヲアリ若シ此地方ヨリ自由ニ他處ニ
出ル時ハ他所ニ其病ヲ流行セシムルノ恐
レアルヲ以テ本條ハ即チ流行地方ヨリ他

所ニ出タル者ヲ罰スル法トス故ニ今其流
行地方ニ行ク者アルモ其行ク者ハ之ヲ罰
セスト雖モ若シ再ヒ他所ニ出タル時ハ亦
此刑ヲ免カル、一ヲ得サル者トス

第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防
規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ
十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類ノ傳染病ト雖モ盛ニ流行スル時ハ甚
ク恐ル可キ者トス故ニ其傳染病流行スル
地方ヨリ豫防規則ニ違背シ他所ニ獸類ヲ
出シタル者ハ本條ノ刑ヲ科スル者トス
本條及ヒ前數條ハ皆豫防規則ニ違背スト

謂フ字ヲ冠セリ故ニ若シ豫防規則ノ設ケ
アラサル乎又豫防規則ノ設ケアリト雖モ
前數條ノ事ヲ其規則ニ禁セサル時ハ前數
條ノ事ヲ為スモ其罪ヲ問フヲ得ス又其
規則ニ前數條ノ事ヲ禁セスシテ他ニ禁止
ノ法ヲ設クル時ハ單ニ其規則ニ依テ罰ス
可キト知ル可シ

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物
品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可
キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以
上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シ

陸軍省衛生部審査局

タル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條危害ヲ生ス可キ物品并ニ健康ヲ害ス
可キ物品トハ第百五十七條ニ記載シタル
破裂質ノ物品ヲ謂フニ非ス即チ毒藥劇藥
其他此類ノ物品ヲ謂フ本邦未タ此等ノ物
品ヲ製造スル者寡シト雖モ將來ハ必ス盛
ニ製造スルニ至ル可シ此等ノ物品ハ人ニ
對シ危害ヲ及ホシ健康ヲ害スルニ至ル者
ナルヲ以テ若シ之ヲ製造セントスル者ハ
必ス官ノ許可ヲ得サル可カラサル者トス
本條ハ一身ノ利欲ヲ圖リ官許ヲ得スレテ
擅ニ此等ノ物品ヲ製造スル為メ其製造所
ヲ創設シタル者ヲ罰スル法トス故ニ禁錮

ノ刑ハ科セスト雖モ頗ル多數ノ罰金ヲ科
シタル者ナリ

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタ
ル製造所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康
ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例
ニ照シ各一等ヲ減ス
官許ヲ得テ前條ニ記載シタル物品ノ製造
所ヲ創設スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保
護スル規則ニ違背スル時ハ必ス人ニ對シ
危害ヲ及ホシ健康ヲ害スルニ至ル可キヲ
以テ本條ノ罪ヲ犯ス者ハ前條ノ刑ニ照シ
一等ヲ減シテ處斷スル者トス
第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ

陸軍省衛生部審査局

疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
前二條ニ記載シタル罪ヲ犯ス時ハ固ヨリ人ニ對シ危害ヲ及ホシ健康ヲ害スルニ至ル可キ者ナル可シト雖モ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル罪并ニ道路橋梁河溝港埠ヲ損壞スル罪ト違ヒ水ヲ腐敗セシメ又ハ道路橋梁等ヲ損壞スル時ハ人其水ヲ服用シ又損壞シタル道路橋梁ニ陥リタル時ハ直チニ疾病及ヒ死ニ至ルモ前二條ノ罪ハ直接ニ人ヲ疾病死傷ニ致ス者ニ非ス又假令其製造所ノ顛覆シテ人ヲ疾病死傷ニ致スニアルモ是レ即チ意外ノ事ニシテ故意

水ヲ腐敗セシメ又ハ道路橋梁等ヲ損壞シテ人ヲ疾病死傷ニ致ス者ノ其惡意ヲ構ヘテ為シタルトト比較ス可キ者ニ非ス到底前二條ノ罪ハ其意ヲ設クタル但夕一己ノ利欲ヲ圖ルニ在テ期セス人ヲ疾病死傷ニ致シタルヲ以テ本條過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スルトニ定メタル者トス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十四條ノ罪ハ人ノ健康ヲ害ス可
キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシ
ムル者ナリ本條ノ罪モ人ノ健康ヲ害ス可
キ物品ヲ混和シテ販賣スト謂フト雖モ本
條ノ罪ハ他ニ惡意アリテ犯ス者ニ非ス但
ク瑣少ノ利益ヲ圖リ犯ス所ノ者ニシテ例
ハ菓子肴物等ニ銅綠洋紅ノ類ヲ以テ装
色ヲ為シ又人ヲ詐偽シテ財物ヲ取ルノ意
ニ非ス一時ノ事ニ於テ酒醬等ニ健康ノ害
トナル物品ヲ混合シテ販賣スルノ類トス
水質ヲ變シ又ハ腐敗セシムル如ク其害ノ
甚シキニ至ラス又詐偽取財ノ罪ノ如ク人
ヲ欺罔スルノ意ナキ者トス即チ三圓以上

三十圓以下ノ罰金ニ處スル所以ナリ

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ
販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ
處ス

本條ノ罪モ他ノ意アルニ非ス但ク一時ノ
細利ヲ圖ルニ出ルカ又ハ注意ス可キヲ怠
テ規則ニ違背シ毒藥劇藥ヲ販賣スル者ト
ス然リト雖モ本條ニ記載シタルハ前條
ニ比スレハ其危害ヲ生スルハ頗ル多キヲ
以テ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スル
者トス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ
疾病又ハ死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本

陸軍刑罰法 毒藥劇藥ノ販賣

條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ疾病及ヒ死ニ致シタル時ノ處分ヲ揭ケタル者ナリ前二條ノ罪ハ但タ一時瑣少ノ利ヲ圖ルニ出ルカ又ハ注意ス可キヲ怠テ犯シタルニ過キサレハ人ヲ疾病及ヒ死ニ致スモ殴打創傷シテ疾病及ヒ死ニ致シタル刑ニ引擬ス可カラサル者トス故ニ本條ヲ設ケテ特ニ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スト定メタル者ナリ

第六節 私ニ醫業ヲ為ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スニテ醫業ヲ為シタル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

醫師ノ業タル人ノ生死ニ関スル者ニシテ誠ニ重大ノ業トス故ニ醫業ノ為サントスル者ハ鄭重ナル試験ヲ經合格ノ者ニ非レハ官之ヲ許可セサル者ナリ未タ其官許ヲ得サル者ヲシテ縱マニ醫業ヲ為サシムル時ハ幾許ノ人命ヲ損スルニ至ルモ知ル可カラス是レ即チ本條ヲ設ケタル主意トス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

官許ヲ得サル者ノ醫業ヲ為ス可カラサルハ前條ノ禁スル所ナリ其官許ヲ得サル者ニシテ仍ホ治療ノ方法ヲ誤リ人ヲ死傷ニ

致シタル時ハ重ク罰シテ嚴ニ将来ヲ懲戒
セサルヲ得サル者ノ如シ然リト雖モ固ト
人ノ病ヒヲ治療スルノ意ニ出テ、其方法
ヲ誤リ偶々死傷ニ致シタルモ格別其刑ヲ
重クシテ罰スルヲ得可カラサル所ノ者ア
リ本條過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從
テ處斷スルトニ定メタルハ頗ル的當ノ處
分トス若シ其方法ヲ誤ラサルカ其病者ノ
死傷ニ至タルハ命數ナルヲ以テ官許ヲ得
スシテ醫業ヲ為シタル罪ヲ責ムルノ外亦
他ノ刑ヲ以テ罰スルトヲ得サル者トス

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ為シタル
第六章 風俗ヲ害スル罪

者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
猥褻ノ所行タル一ニシテ止ラス心ス多ク
アル可キ者トス今夫々之ヲ記載スレハ翻
テ風俗ヲ害スルニ近キラ以テ何ノ所行ヲ
猥褻トスルヲ暫ク其解明ヲ欠ケリ此罪ヲ
判スル者モ猥褻ト謂フ字義ニ就テ之ヲ含
味スルハ亦自ラ其何ノ所行タルヲ知ル可
シ
本條ニ於テ注意ス可キハ公然ト謂フト是
ナリ故ニ人ノ目ニ觸ルノ場所ニ非ルカ又
人ノ目ニ觸ル、場所ニ於テスルモ夜間等
ニテ人ノ之ヲ見ルヲ得サル場合ニ於テハ
本條ヲ以テ論スルヲ得サル者トス

陸軍刑法 第六編 風俗ヲ害スル罪

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖畫其他

猥褻ノ物品ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル者

四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ハ猥褻ノ所行ヲ罰スル法ニシテ本條

ハ猥褻ノ物品ヲ人ノ目ニ觸ル、所ニ陳列

シ又ハ之ヲ販賣スル者ヲ罰スル法トス風

俗ヲ害スル冊子圖畫トハ即テ猥褻ノ事ヲ

掲ケタル冊子圖畫ヲ謂フ本條ノ罪ハ一時

ノ発意ヨリ起ル者ニ非スシテ多クハ利欲

ヲ圖ルニ出ル者ナルヲ以テ其罰金ヲ多ク

科シタル者トス

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ

博徒ヲ招結シタル者ハ三月以上一年以下ノ

重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附

加ス

賭博ノ人ノ生業ヲ害スル一世人ノ周ク知

ル所ノ者ナルヲ以テ今茲ニ喋々其害タル

所以ヲ辨セス本條ハ賭場ヲ開張シテ利ヲ

圖リ又ハ博徒ヲ招結シテ博奕ヲ為サシム

ル者ヲ罰スル法トス此等ノ者ハ外ニ名ケ

ル職業ヲ營マス常ニ人ヲ誘導シテ博奕ヲ

為サシメ其利ヲ以テ生計トスル者多シ世

人ノ賭博ニ侵染スルハ多クハ此等ノ者ノ

誘導ニ係ル者トス故ニ此等ノ者ハ現ニ賭

場ヲ開業シ又ハ博徒ヲ招結スルニ非サル

モ本條ヲ以テ其罪ヲ論スル者トス

第二百六十一條

財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ為シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ給典シタル者亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

本條ハ賭場ノ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタル者ニ非スシテ普通ノ博奕ヲ為ス者ヲ罰スル法トス故ニ其刑前條ノ半ニ減降シタル者ナリ現ニ博奕ヲ為シタル者ト謂フ現ニノ二字本條ノ主眼トス即チ目下博奕ヲ為シタル者ニ非レハ嘗テ博奕ヲ為シタルヲアルモ其既往ニ屬スル者ハ

本條ヲ以テ論スルヲ得サルト是ナリ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ト謂フモ普通ノ人民ニシテ一時之ヲ給典シタル者ナリ故ニ此犯人モ現ニ給典シタルニ非トハ亦其罪ヲ論スルヲ得サル者トス

飲食物ヲ賭スルトハ其場ニ於テ一時ニ消費スル酒肴並ニ菓子ノ類ヲ賭スル者ヲ謂フ酒何樽米何俵ヲ賭スルト謂フニ至レハ本條ノ刑ニ處セサルヲ得ス又賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ト謂フ現場ノ文字ニ注意スルヲ要ス即チ賭博ヲサス為メ準備シタル財物ト雖モ其場ニ在ラサル者ハ之ヲ沒收スルヲ得サル者トス

陸軍刑法 卷之四

第二百六十二條

財物ヲ醸集シ富籤ヲ以テ利
益ヲ僥倖スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以
上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ解明ヲ要セスシテ明カナリ即チ利
益ヲ僥倖スルノ業ハ人民ニ其益ナクシテ
害アル者トス人民ニ害アル者ハ縦ニ之ヲ
為サシム可カラス故ニ本條ヲ設ケテ此業
ヲ興行スル者ヲ罰スルノ定メタル者ナ
リ本條ニ於テ但夕一ノ注意ヲ要スルハ此
業ヲ興行スル者ニ應シテ富籤ヲ買取スル
者ヲ罰セサルノ是ナリ此業ヲ興行スル者
ハ財利ノ術ニ出テ此業ヲ興行スル間ニ於

テ必ズ不正ノ利ヲ已レニ得ントスル者ト
ルヲ以テ之ヲ罰スルモ其富籤ヲ買取スル
者ハ期ス可カラサルヲ僥倖スルモ不正
ノ利ヲ得ントスルノ意ナキヲ以テノ故ナ
リ

第二百六十三條

神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ
對シ公然不敬ノ所為アル者ハ二圓以上二十
圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以
上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ハ解明ヲ要セスシテ明カナルヲ以テ
故ヲニ贅言ヲ加ヘス

第七章

死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ発掘

スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ之ヲ一讀スレハ其目的ヲ掲ケサルヲ以テ何ノ為メニ死屍ヲ毀棄スルヤ解ス可カラサル者ノ如シ抑モ人死スレハ之ヲ埋葬スルハ一般ノ通儀ニシテ埋葬セサルト之レアルナシ然ルニ本條特ニ埋葬ス可キ死屍ト掲ケタルニ於テ明カニ本條ハ何ノ為メニ死屍ヲ毀棄シタルヤヲ解スルヲ得可シ即チ残忍ニシテ已レノ管照ス可キ者ノ死シタル時埋葬ノ費ヲ厭フテ河中ニ

投シ又ハ山野ニ投棄スル等世間ニ往々有ル所ノ事トス本條ハ即チ此等ノ事ヲ為ス者ヲ罰スル法トス其擅ニ解剖ヲ為シ及ヒ自己所有ノ地内ニ在ル者ヲ窃カニ他所ニ移ス等ノトヲ為スモ亦本條ヲ以テ論スルヲ得ス此等ノ事ハ違警罪中ニ其正條ヲ記載セリ

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ノ罪ヲ犯スハ多クハ盜ノ目的ニ出ル者トス然ルニ其盜ノ目的タルト判然スル

重罪判例集

時ハ盜ヲ以テ論スルヲ得ルモ果シテ盜ノ
目的ニ出シヤ又他ノ目的ニ出シヤ判然セ
サル時ハ本條ニ依テ處斷セサルヲ得ス又
怨ヲ含シテ死屍ヲ毀棄スルニ至ルモ他ニ
此者ヲ罰スル正條ナキヲ以テ本條ニ依テ
處斷セサルヲ得サル者トス本條ハ外ニ解
明ヲ要セスシテ明カナリ

第二百六十六條

此章ニ記載シタル罪ヲ犯サ
ントテ未夕遂ケサル者ハ未夕遂犯罪ノ例ニ照
シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル
罪

第二百六十七條

偽計又ハ威カラ以テ穀類其

他衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物ノ賣
買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重
禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附
加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害
シタル者ハ一等ヲ減ス

威カラ以テ妨害ヲ為スハ直接ニ人ニ對シ
威カノ加フルヲ以テ之ヲ判定スルノ容易
ナリト雖モ偽計ヲ以テ妨害スルニ至テハ
甚タ判定シ難キ者トス今茲ニ一二ノ例ヲ
掲クレハ新聞誌其他ノ文書ヲ以テ何處ニ
在ル米穀ハ嘗テ傳染病流行ノ地方ヲ經テ
來タル者ナルヲ以テ買入ヲ為ス可カラス

又嘗テ鹽水ニ浸シタル者ナルヲ以テ其品宜シカ
ラスト公告シ又ハ何某ハ身代限り近キニ在
ルヲ以テ品物ヲ賣渡ス可カラスト詐言シ
又ハ某家ノ物品ニハ偽物混合物多キヲ以テ買取ス
可カラスト詐稱スルノ類皆本條偽計ヲ以テ賣買
ヲ妨害スルト謂フニ的當スル者トス本條ノ
罪ハ其目的ヲ尋ヌレハ到底已レ一人ニテ全利
ヲ得ンカ為メ人ノ賣買ヲ妨害スル者ナル可レト
雖モ詐偽シテ人ノ財物ヲ取ルト謂フノ情及
ヒ所為ナキヲ以テ六月以下ノ禁錮三十圓
以下ノ罰金ニ處スル者トス
衆人ノ需用ニ缺ク可カラサル食用物トハ
酒酢醬油味噌及ヒ魚肉野菜ノ類ニシテ即

チ平常ノ食用ニ缺ク可カラサル物品ヲ謂
フ其他平常缺ク可カラサル食用物ニ非サ
ル物品ノ賣買ヲ妨害スル者ハ本條後項ニ
依リ一等ヲ減シテ處斷スル者トス

第二百六十八條

偽計ハ威カラテ糶賣又ハ
入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

糶賣及ヒ入札等ヲ妨害スル者アル時ハ或
ハ大ナル損害ヲ被ムルニ至ル者アル可シ
ト雖モ前條ニ記載シタル
害スル如ク一般ノ人民ニ對シ不便ヲ來ス
者ニ非レハ前條ヨリ其刑ヲ輕クシタル者

ナリ

第二百六十九條 偽計又ハ威カラテ農工ノ業ヲ妨害シタル者ハ亦前條ニ同シ

農業工業ノ於テモ一人一個ノ業ヲ為スラ妨害スルハ甚シキ害ヲ来ス者ニ非スト雖モ若シ數人社ヲ結ヒ農業工業ヲ為ス時ハ洪大ナル業ヲ起スニ至ル者ナリ若シ之ヲ妨害スル時ハ其害實ニ輕カラサル者トス本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ工業ノ景況ヲ變セシムル為メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威カラテ妨害ヲ為シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓

以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變スル為メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威カラテ妨害ヲ為シタル者ハ亦前條ニ同シ

本邦未タ大エラ起シ大農即チ數多ノ人員ヲ雇ヒ入レ農業ヲ為ス者寡ナキヲ以テ雇人ノ賃錢ヲ増サシメ又其業ノ景況ヲ變セシムル為メ雇主ニ對シ偽計威カラテ妨害ヲ為シ及ヒ雇主ノ賃錢ヲ減シ又其業ノ景況ヲ變スル為メ雇人ニ對シ偽計威カラテ妨害ヲ為ス等ノ事ナシト雖モ歐米兩例ニ於テハ往々此等ノ事ヲ為ス者アリト

陸軍升河警備隊官制
聞ケリ故ニ本邦ニ於テハ現在本條ヲ設ケ
テ其益ヲ見ルノ寡ナシト雖モ他日開化ノ
進ムニ從ヒ穀米兩洲ノ如ク大工ヲ起シ大
農ヲ為ス者アルニ至ル可シ其時ニ方レハ
本條ノ刑ヲ設ケタルノ益ヲ見ルノ頗ル大
ナル可シ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ他
亦解明ヲ要セシテ明カナリ故ニ喋々贅
言ヲ加ヘス

第二百七十二條 虚偽ノ風説ヲ流布シテ穀類
其他衆人需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル
者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪モ已レ一人全利ヲ得ント欲シ犯
ス所ノ者ノ如シ其人ニ對シ偽計威力等ヲ

加フル者ニ非ス且詐偽取財ノ情ナキヲ以
テ禁錮ノ刑ハ科セスト雖モ其罰金ハ頗ル
多ク科シタル者ナリ

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則
ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ
妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮
ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
本條ハ公布施行セサルヲ得サル法律規則
ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行
スルヲ妨害スル罪ヲ定メタル者ナリ故ニ
本條管掌ニ係ル法律規則ト記載スルヲ以

テ例へハ府知事縣令ニテ府縣會議員ヲリ
請願スルトニシテ其管内ニ公布施行ス可
キ者ト雖モ其事ノ公布施行スルモ又公布
施行セサルモ府知事縣令ノ權ヲ以テ取捨
スルヲ得ルニ係ル者ハ本條ヲ以テ論ス可
カラサル者トス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用
スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ
鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ為サ、ル者ハ
三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以
上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百七十七條ハ出兵ヲ肯ンセサル將校ノ
罪ヲ定メタル者ナリ本條ハ出兵ヲ要求シ

及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏ノ地方ノ騷
擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其
處分ヲ為サ、ル者ノ罪ヲ定メタル者トス
本邦現在ノ法ニ於テハ兵ヲ使用スル權ア
ル者ハ總テ將校ニ在ルヲ以テ他人ニ在テ
ハ之ヲ要求スル者ノ外本條ノ刑ヲ科セラ
ル、者ナカル可シト雖モ西洋各國ニ於テ
ハ府縣令ニ兵ヲ使用スル權ヲ與ヘタル事
アリト聞ケリ本邦ニ於テモ他日府縣令ニ
其權ヲ與フルコトアルニ至ルモ又計ル可カ
ラス畢竟本條之ヲ使用スル權アル官吏云
々ト記載シタルハ此等ノ事ヲ慮リタル者
ナル可シ否ラサレハ陸海軍ノ將校ニシテ

兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ方リ其處分ヲ
為サ、ル時本條ノ刑ハ第百七十七條ヲ刑
ヨリ重キヲ以テ本條ヲ以テ處断スト謂フ
ニ至レハ殆ント第百七十七條ハ無用ニ屬
スル者トス立法者ノ注意シタルハ全ク他
日ノトヲ慮リタル者ノ如シ

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ
為シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金
ニ處ス

官吏ニシテ商業ヲ為ス時ハ其職務ヲ妨害
スルノミナラス例ヘハ縣令ニテ名ヲ他事
ニ託シ船舶ノ入港ヲ禁シ貨物ノ運送ヲ止
メ其間ニ於テ利ヲ圖ル等ノ事アル時ハ之

八年四月六
十五號ノ達
シアリ

レカ為ノ餘人ノ商業ヲ妨害シ且ツ一般人
民ニ對シ大ナル妨害ヲ及ホスニ至ル者ト
ス本條嚴ニ之ヲ禁シタル所以ナリ然ルニ
自己所有ノ田地ヨリ生スル物品ヲ販賣ス
ル等ハ假令其身分ハ官吏ナルモ固ヨリ之
ヲ禁スルヲ得サル者ナリ此等ノ事ハ明治
八年第六十五号ノ達ヲ以テ其規則ヲ定メ
禁セサルヲ以テ本條ヲ實施スル者ハ其規
則ニ照シ本條ヲ以テ論ス可キ者ト否ニサ
ル者トヲ撰シテ處分セサルヲ得サル者ト
ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシ

陸軍刑法草案審査局

テハ權利ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其為ス可キ
權利ヲ妨害ノタル者ハ十一日以上二月以下
ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

本條ハ官吏ノ人民ニ對シ權利ナキ事ヲ行
ハシメ又ハ為ス可キ權利ヲ妨害シテ行ハ
シメサル罪ヲ定メタル者ニシテ其人民ニ
害ヲ加フル者ヲ罰スル法トス本條權利ナ
キ事ヲ行ハシメ云々ト弘キ文字ヲ以テ記
載セシト雖モ本條ノ主意ハ公權政權及ヒ
民權等ノ事ノ外ニ出サル者トス此等ノ事
ヲ行フ權利ナキ者ニ強テ之ヲ行ハシメ又
ハ權利アル者ノ此等ノ事ヲ行フヲ妨害シ

テ行ハシメサル時ハ其人々ニ對シ害ヲ加
フルノミニ止ラス之レカ為メ世間ノ秩序
ヲ錯亂スル者トス是本條ヲ設ケタル所以
ナリ

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ
犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報
告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ
十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以
上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ他ニ解明ヲ要セスシテ明カナリ即
チ犯罪人アルニ方リ人民ヲ保護スル責任
アル官吏ニシテ其責任ヲ怠タリ保護ノ處
分ヲ爲サ、ル者ヲ罰スル法トス故ニ本條

川法事案審査局

刑ヲ受クル者ハ現時ニ在テハ豫審判事
檢事警察官吏ノミトス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程
式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正
二人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等
ヲ加フ

本條ハ逮捕官吏即チ豫審判事檢事警察官
吏等ノ程式規則ニ從ハスシテ人ヲ逮捕シ
又ハ不正二人ヲ監禁シタル者ヲ罰スル法
トス普通ノ者ノ人ヲ逮捕及ヒ監禁スル時
ハ第三百二十二條ニ從ヒ二月以下ノ禁錮

二十圓以下ノ罰金ニ止ムト雖モ逮捕官吏
ハ固ト人ヲ逮捕及ヒ監禁スルノ任アルヲ
以テ若シ己レノ私心ニ出テ人ヲ逮捕及ヒ
監禁セントスル時ハ甚タ易キ者トス且ツ
此任アル者ハ務メテ人ヲ逮捕監禁スル
ヲ謹マシメスンハアル可カラサル者トス
本條ハ特ニ此官吏ニシテ程式規則ニ從ハ
スシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ監禁シタル
者ヲ罰スル爲メ設ケタル者ナルヲ以テ其
禁錮ノ期限ヲ三月ト爲シタル者ナリ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セ
スシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシ
ム可キノ時ニ至リ之ヲ放免セサル者ハ亦前

條ノ例ニ同シ

司獄官吏ノ人ヲ監禁スルハ嚴ニ其程式規則ヲ遵守セシメサルヲ得ス此官吏ニシテ程式規則ヲ遵守セス人ヲ監禁スル時ハ固ト人ヲ監禁スル任アルヲ以テ前條ニ解明シタル如ク頗ル不正ノ監禁ヲ為スニ至リ易キ者ナリ故ニ本條司獄官吏ニシテ不正ニ人ヲ監禁シタル時ハ前條ニ等シク其刑ヲ科スルコトニ定メタル者トス

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛判ノ所為ヲ施シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス本條ハ逮捕官吏司獄官吏并ニ護送者ノ囚人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛判ノ所為ヲ施シタル者ヲ罰スル法トス即チ本條囚人ト謂フハ普通ノ囚人并ニ自カラ不正ニ監禁シタル囚人モ本條中ニ含有スル者トス普通ノ者ノ自カラ監禁シタル者ニ對シ本條ノ所有ヲ施ス時ハ第三百二十三條第三百二十四條ニ依リ處斷スト雖モ本條ハ逮捕官吏司獄官吏并ニ護送者ニ係ルヲ以テ普通ノ者ノ犯スニ比スレハ亦其刑ヲ

刑部省 監禁 監禁 監禁

重クシテ罰セサルヲ得サル者トス故ニ本
條ハ第三百二十三條第三百二十四條ヨリ
一等以上重クシタル者ナリ

第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監
禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ
毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ

本條ハ固ト懈怠ニ出ルヲ以テ毆打創傷ノ
刑ニ一等ヲ加ヘテ處断スルハ重キニ過キ
其當ヲ得スト論スル者アリト雖モ人ヲ監
禁スル任アル官吏ニシテ水火震災ノ際怠
テ其監禁ヲ解カス因テ囚人ヲ死傷ニ致ス
時ハ其禍ヲ被ムル者必ス瑣少ノ人負ニ止
ラサル可シ且ツ本條ノ囚人ト謂モ普通ノ

囚人ニ限ラヌ自カラ不正ニ監禁シタル囚
人モ亦含有スル者トス故ニ前條ト推衡ヲ
同フシ普通ノ者ノ犯シタルニ一等ヲ加ヘ
テ處断スル者トス

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被
告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル為メ暴行ヲ
加ヘ又ハ凌虐ノ所爲アル者ハ四月以上四年
以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス

因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷
ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處断
ス

普通ノ者ノ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責ス

ルモ其害輕キニ非スト雖モ裁判官檢事警
察官吏ノ被告人ニ對シ罪状ヲ陳述セシム
ル為メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所為ヲ施ス
ニ比スレハ其害大ニ輕シトス即チ普通ノ
者ハ一身ノ憤ヲ漏スカ為メカ又ハ止メ一
時人ヲ困苦セシムル等ニ出テ、毆打拷責
スルニ止ルモ(若シ謀殺ノ所為ニ係ル者ハ
謀殺本條ニ依ル)判事檢事警察官等ノ被告
人ニ對シ罪状ヲ陳述セシムル為メ暴行及
ヒ凌虐ノ所為ヲ加フルハ其之ヲ加フル者
ハ事實ヲ陳述セシムルノ意ニ出ルモ之レ
カ為メ人ノ冤罪ニ陥ルコト古ヨリ其例寡シ
トセス假令暴行及ヒ凌虐ノ所為ヲ加フル

ニ非ナルモ稍々言ヲ厲マシテ訊問スル時
ハ其威ヲ恐レ事實ナキ所ノ事ヲ陳述スル
者多シ故ニ被告人ヲ訊問スル者ハ務メテ
平和ノ言辭ヲ用ヒ恐怖セシメサルヲ要ス
然ルニ之ニ對シ暴行及ヒ凌虐ノ所為ヲ加
ヘ訊問スル時ハ或ハ之レカ為メ事實ナキ
事ニシテ死刑ニ該ル罪ヲ犯シタリト陳述
スルニ至ル者アルモ計ル可カラズ謹マス
シハアル可カテサル所ノ者ナリ故ニ此等
ノ官吏ノ此等ノ事ヲ為ス時ハ普通ノ者ノ
人ヲ毆打拷責シタル時之ヲ罰スル刑ヨリ
特ニ其刑ヲ重クシテ處分セサルヲ得サル
者トス本條第三百二十三條ノ刑ニ殆シト

倍シタル刑ヲ設ケタルハ全ク此等ノ弊ヲ防カントスル為メナリ

第二百八十三條 裁判官檢察官故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理セズ又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條モ第二百七十七條ト同シク其責ヲ怠タリ盡ク可キ職務ヲ盡サ、ル者ヲ罰スル法トス畢竟官吏ノ怠テ其職務ヲ為サ、ル者ハ懲戒令ニ依リ處分スルヲ至當ノ事トス然ルニ判官檢事警察官等ノ民刑兩事件ノ訴ヲ受理セズ又ハ遷延シテ審理セサル時ハ直接ニ人民ニ對シ損害ヲ及ホスニ至

ル者ナルヲ以テ懲戒令ニ照シ免職罰俸等ニ止ムルヲ得ス因テ本條ヲ設ケタル者トス他又解明ヲ要セズシテ明カナリ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ不正ノ處分ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ本條ハ一般ノ官吏ヲ罰スル法トス即チ其何ノ官吏タルヲ問ハズ人ヨリ公事ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又未タ之ヲ收受セサルモ收受スルコヲ聽許シタル時ハ其囑託ヲ受ケタル公事ヲ處分セズ又ハ囑託者ノ

意ニ及シ正シク之ヲ處分スルモ本條ノ刑
 處スル者トス官吏タル者ハ公平正直ヲ
 守リ公事ニ就テハ人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ
 收受スル等ノ事ヲ為ス可カラサル者ナリ
 之ヨリ官憲ヲ錯亂スルノ基ヲ開ケハナリ
 若シ賄賂ヲ收受シ又ハ聽許シテ不正ノ處
 分ヲ為シタル時ハ官憲ヲ錯亂スルニ至ル
 ヲ以テ一等ヲ加ヘテ處断スル者トス
 第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ関シテ
 賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月
 以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ不正ノ裁判ヲ為シタル時ハ一等ヲ加フ

本條ハ判官民事ノ裁判ヲ為スニ方リ原告
 若クハ被告人ヨリ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ
 聽許シタル者ヲ罰スル法トス若シ賄賂ヲ
 受ケ又聽許シテ不正ノ裁判ヲ為ス時ハ前
 條ト等シク一等ヲ加ヘテ處断スル者トス
 前條ノ罪ヲ犯ス時ハ官私ノ間ニ於テ損害
 ヲ被ムルコトナキニ非スト雖モ本條ノ罪ノ
 如ク原告被告双方ノ間ニ於テ直ヲ狂ケテ
 曲ト為シ曲ヲ變シテ直ト為シ其一方ニ損
 害ヲ被シムル如ク甚シキニ至ル者ニ非ス
 因テ本條ハ前條ヨリ殆ント倍シタル刑ヲ
 科スルコトニ定メタル者ナリ
 第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ

裁判ニ関シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス若断シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百一十一條第二百一十二條ノ例ニ照シテ及坐ス

本條并ニ前二條ハ旧法ニ所謂枉法不枉法ノ罪ヲ定メタル者ナリ前二條ハ人ノ罪ヲ判断スルコトニ関セスト雖モ本條ハ人ノ罪

ヲ判断スルコトニ係ルヲ以テ必ス被告人ヲ曲庇陷害スル事ノ生スル者トス普通ノ者ノ被告人ヲ曲庇陷害スル為メ偽証ヲ為シタル時ハ重罪輕罪違警罪ヲ區別シ夫々其刑ヲ輕重シテ處断スルコトニ定メタリト雖モ判官人ヲ曲庇陷害スル時ハ其刑ヲ重クシテ罰セサルヲ得サル者トス故ニ本條重罪輕罪違警罪ヲ分テ其間ニ輕重ノ區別ヲ立テス且ツ其刑ヲ重ク定メタリ然ルニ假令判官ヲ此罪ヲ犯スモ凡ソ人ヲ罰スルハ大抵其定度アル者ニシテ判官之ヲ犯スト謂フモ其定度ヲ離レ格外重クス可カラサル者アリ故ニ枉断ニ因リ被告人ヲ陷害シ

刑部省 法律局

ナル時其刑ニ反座スルハ普通ノ者ノ人ヲ
陷害シタル時之ヲ反座スルノ例ニ同シク
處分スル者トス

第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ
收受聽許セスト雖モ情ニ徇カレ又ハ怨ヲ挾
サニ被告人ヲ曲庇陷害シタル者ハ前條ノ例
ニ同シ

本條ハ旧法ニ所謂故ヲニ人ヲ罪ニ出入ス
ル者ノ罪トス之レカ為メ官憲ヲ害シ被告
人ヲ困苦セシムルコト前條ニ異ナルナキヲ
以テ前條ノ例ニ同シク處断スル者トス

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已
ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者

ハ其價ヲ追徴ス

犯罪ノ用ニ供シタル物品ハ之ヲ沒收スル
コト總則ニ於テ明カニ之ヲ示シタリ本條賄
賂トシテ贈與シタル物品ハ之ヲ贈與スル
者ノ罪ヲ定メサルヲ以テ法理ニ照セハ贈
與スル者ニ還付セサルヲ得サル者ノ如シ
然ルニ之ヲ贈與スル者モ固ト不正ノ事ヲ
請求スルニ因テ贈與シタルヲ以テ假令其
罪ヲ定メサルモ之ヲ還付スルコトヲ得ヘカ
ラサル所ノ者アリ何トナレハ此物品ヲ以
テ官吏ヲ罪ニ誘導シタル者ナレハナリ故
ニ總則ノ例ヲ異ニシ特別ニ本條ヲ設ケタ
ル者ナリ又之ヲ受ケタル者ヨリ謂フ時ハ

犯罪ニ因テ得タル物品ハ之ヲ没收セサル
ヲ得ス且ツ賄賂トシテ贈與シタル物品ヲ
以テ官吏ニ其富ヲ為サシム可カラズ因テ
己ニ之ヲ費用スルモ仍ホ其價ヲ追徴スル
者トス

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀
物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス
因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シ
タル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處断ス
本條ハ旧法ニ所謂監守自盜ノ罪ヲ掲ケタ
ル者トス本刑法兇器ヲ携帯シテ犯スノ外
普通ノ竊盜ハ輕罪ノ刑ニ止メ又強盜ヲ犯

スモ兇器ヲ持セス及ヒ二人以上ニ非サル
時ハ輕懲役ニ止メタルヲ以テ本條モ此ノ
二罪ニ權衡ヲ取り輕懲役ニ止メタル者ナ
リ且ツ通常ノ者ニテ本條ノ罪ヲ犯ス時ハ
第三百九十五條ニ依テ處分スト雖モ本條
ハ畢竟官吏ノ犯スニ係ルヲ以テ特ニ其刑
ヲ重クシタル者トス

本條ノ罪ヲ犯スニ因テ文書簿冊ヲ増減變
換棄毀スルモ此増減變換棄毀等ノ事ヲ為
ス時ハ官ノ害ヲ為スコ更ニ甚シキヲ第二
百五條ノ例ニ照シ處断スル者トス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收ス
ル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月

以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條正數外ノ金穀ヲ散收シタルトハ當然散收ス可キ額ノ外多餘ノ金穀ヲ散收シタル者トス故ニ平心ニテ之ヲ見レハ其多餘ノ金穀ハ之ヲ已レニ入レサル時ニ係ル者ノ如シ然ルニ例ハハ千圓ヲ散收ス可キヲ千二百圓ヲ散收シ三百圓ヲ已レニ入ル、時此場合ニ於テハ百圓ハ官金ニ係ルヲ以テ前條ニ依リ監守自盜ヲ以テ論スルヲ得ルモ其正數外ノ二百圓ヲ已レニ入ル、時本條ハ正數外ノ金穀ヲ散收スルモ已レニ入レサル者ニ限ルトスル時ハ竊盜ヲ以テ

論スルニ非サレハ詐偽取財ニ依ラサルヲ得ス然ルニ竊盜ノ罪モ亦詐偽取財ノ罪モ其刑本條ヨリ輕キヲ以テ其權衡ヲ得ス故ニ本條ハ其正數外ニテ多餘ノ金穀ヲ散收シタル者ハ之ヲ已レニ入ル、モ亦已レニ入レサルモ等シク本條ニ依テ處断セサルヲ得サル者トス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

人

刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...
 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...

刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六... 刑部... 卷之六...



